総会報告

第1回定時総会報告

日　　時：平成23年3月29日(火) 14時00分～16時00分
会　　場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）
出席代議員数：54名（内委任状33名）
（代議員数総数：59名，総会成立の定数30名以上）
議　　案：
（1） 平成22年度（1月～12月）事業報告　【第1号議案】
（2） 平成22年度（1月～12月）決算報告　【第2号議案】
（3） 平成23年度（1月～12月）事業計画　【第3号議案】
（4） 平成23年度（1月～12月）予算計画　【第4号議案】
（5） 平成23年1月～2月事業報告　【第5号議案】
（6） 平成23年1月～2月決算報告　【第6号議案】
（7） 平成23年3月～12月事業計画　【報告資料1】
（8） 平成23年3月～12月予算計画　【報告資料2】
（9） 個人会員除名および資格の喪失の件　【報告資料3】
（10） 平成23年度役員の件　【第7号議案】
（11） 会費入会金細則改訂の件　【第8号議案】
議　　事：
午後2時00分，定款第15号に基づき榊原伸介会長が議長となり，出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第1回定時総会の開会を宣した．
次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された．

各議案の内容は以下のとおり．

【第1号議案】

平成22年度　事　業　報　告
（自 平成22年1月1日　至 平成22年12月31日）

I　庶　　務

1．会員状況

	平成22年12月31日現在	平成21年12月31日現在	増減
名誉会員	8名	8名	0名
正 会 員	2,977名	3,034名	57名減
学生会員	1,173名	1,168名	5名増
賛助会員	59団体（84口）	65団体（92口）	6団体減（8口減）

2．総会
（1） 第28回総会
会　　期：平成22年3月24日（水）
会　　場：本郷瀬川ビル
出席社員数：95名（うち 委任状提出：65名）
（正社員総数：109名，総会成立の定数55名以上）
委任状を含めた出席者数：理事20名，評議員75名
（議題の可決に必要な出席者数：理事15名，評議員67名）
議　　題：平成21年度の事業・決算案，平成22年度の事業計画・予算案，個人会員除名処分，理事・監事の選任の件，評議員の選任の件，非営利型一般社団法人への移行にかかわる件
上記について審議し，議決した．
（2） 臨時総会
会　　期：平成22年9月22日（水）
会　　場：名古屋工業大学
出席社員数：100名（内委任状40名）
（正社員総数：109名，総会成立の定数55名以上）
委任状を含めた出席者数：理事19名，評議員81名
（議題の可決に必要な出席者数：理事15名，評議員67名）
議　　題：定款修正の件
上記について審議し，議決した．
3．シンポジウム，講習会等の主催，共催，協賛，後援（定款第4条1号，5号）
（1） シンポジウム，講演会，講習会等8件を主催した．
（2） シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト等9件を共催した．
（3） シンポジウム，国際会議，講演会，講習会，展示会，研究会等90件を協賛した．
（4） シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト，展示会等20件を後援・協力した．
4．委員会
下記の委員会を開催した．
（1） 会誌編集委員会　（委員長：小俣　透）
（2） 欧文誌委員会　（委員長：前野隆司）
（3） 事業計画委員会　（委員長：太田　順）
（4） 国際委員会　（委員長：脇田優仁）
（5） 研究協議会　（委員長：佐久間一郎）
（6） 出版事業委員会　（委員長：太田　順）
（7） 電子化運営委員会　（委員長：川村貞夫）
（8） アドバイザリーボード　（委員長：榊原伸介）
（9） 将来ビジョン策定委員会　（委員長：榊原伸介）
（10） 事務局体制検討委員会　（委員長：川村貞夫）
（11） 第28回学術講演会実行委員会　（委員長：藤本英雄）
（12） 表彰委員会　（委員長：佐久間一郎）
（13） 第24回論文賞選考小委員会　（委員長：佐久間一郎）
（14） 第25回研究奨励賞選考小委員会　（委員長：榊原伸介）
（15） 第26回研究奨励賞選考小委員会　（委員長：川村貞夫）
（16） 第15回実用化技術賞選考小委員会　（委員長：川村貞夫）
（17） 第3回功労賞選考小委員会　（委員長：川村貞夫）
（18） 第2回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会　（委員長：佐久間一郎）
（19） 外部表彰選考小委員会　（委員長：佐久間一郎）
（20） 会員5000名拡大計画委員会　（委員長：榊原伸介）
（21） 著作権管理委員会　（委員長：佐久間一郎）
（22） 学術講演会管理推進委員会　（委員長：佐久間一郎）
（23） 新公益法人制度対応委員会　（委員長：榊原伸介）
5．役員・評議員および代議員の選出
（1） 平成22年度の理事・監事・評議員を選出した．
（2） 理事会と独立した代議員選挙管理委員会を設け，平成23年度代議員を選出した．
6．評議員会，理事会
（1） 平成22年9月22日（水）に第28回評議員会を開催し，会務報告と評議を行った．
（2） 平成22年9月22日（水）に臨時総会を開催し，新定款修正の承認を行った．
（3） 平成22年度中に12回理事会を開催し，会務の審理と処理を行った．
7．フェロー，名誉会員の選任
8名のフェローを選任した．
8．学会の基盤強化
（1） 産業貢献活動強化
昨年度に引き続き，学術講演会において，各企業での事業活動紹介セッションを実施した．
9．新公益法人制度対応委員会
平成23年2月17日（木）に一般社団法人への移行認定証を受領し，3月1日（火）に登記の変更を完了した．

10. 電子化運営委員会

（1） J-Stage（科学技術情報発信・流通統合システム）での学会誌公開を開始した.

（2） 委員会開催の便宜を図るため，事務局に電話会議システムを導入した.

11. 事務局

（1） 事務局体制検討委員会を開催し，中長期的な事務局運営について検討を開始した.

（2） 会員の利便性を図るため会費徴収手段としてコンビニ振込みを追加した.

（3） 現事務局長の任期満了に伴い，新事務局長を選任した.

II 事　　業（定款第4条1号）

1．学術講演会

（1） 第28回学術講演会

期　　日：2010年9月22日(水)～24日(金)
会　　場：名古屋工業大学
組　　織：実行委員長：藤本英雄(名古屋工業大学)
プログラム委員長：佐野明人(名古屋工業大学)
発 表 件 数：811件
17パラレルセッション
一般セッション：　69セッション
オーガナイズドセッション：　37セッション
展開セッション：　16セッション
国際セッション：　6セッション
合　　計：　128セッション
一般公開イベント「陸・海・空おもしろロボット大集合」
特 別 講 演：講師　松沢哲郎教授［京都大学霊長類研究所所長］
タ イ ト ル：「人間とは何か：チンパンジー研究から見えてきたもの」
参加者数：1,570名
正　会　員：788名
学 生 会 員：548名
非　会　員：64名
学生非会員：89名

2．ロボット工学セミナー

（1） 第56回シンポジウム「ロボットに使える最新画像処理」

期　　日：2010年5月21日(金)　東京大学
講　　師：友納正裕（千葉工業大学），篠原雄介（東芝），藤吉弘亘(中部大学)，佐藤雄隆(産総研)
オーガナイザ：山下　淳(静岡大学)
参　加　者：212名（会員：78名，学生：94名，会員外：22名，賛助優待：12名，賛助半額：6名）

（2） 第57回シンポジウム「ロボットの作り方2010」

期　　日：2010年6月3日(木)・4日(金)　千葉工業大学
講　　師：小野芙未彦(小野電機製作所)（＋実習）
オーガナイザ：太田祐介(千葉工大)
参　加　者：51名(会員：13名，学生：33名，会員外：5名，賛助優待：0名，賛助半額：0名)

（3） 第58回シンポジウム「ロボットに使える先端制御～未来を予測してエレガントに～」

期　　日：2010年7月21日(水)　東京工業大学
講　　師：足立修一（慶大），児島　晃（首都大東京），山北昌毅(東工大)，西羅　光(日産自動車)
オーガナイザ：伊達　央(防大)
参　加　者：70名(会員：37名，学生：15名，会員外：6名，賛助優待：5名，賛助半額：7名)

（4） 第59回シンポジウム「人に拡張身体感をもたらすロボティクスの実現に向けて」

期　　日：2010年9月21日(火)　名古屋大学
講　　師：尾形哲也(京大)，原田達也(東大)，関山浩介(名大)，大場光太郎(産総研)
オーガナイザ：新妻実保子(中大)
参　加　者：24名（会員：13名，学生：6名，会員外：1名，賛助優待：2名，賛助半額：2名）

（5） 第60回シンポジウム「屋外における自律移動技術」

期　　日：2010年10月29日(金)　中央大学
講　　師：坪内孝司（筑波大），堀内伸一郎（日大），三浦純（豊橋技科大），石川貴一朗（早大），志磨　健（日立）
オーガナイザ：小野幸彦(日立)
参　加　者：84名(会員：31名，学生：32名，会員外：8名，賛助優待：3名，賛助半額：10名)

（6） 第61回シンポジウム「記号化を基盤としたロボットの知能化技術」

期　　日：2010年11月29日(月)　東京大学
講　　師：工藤　拓(Google)，中臺一博(ホンダリサーチインスティチュート)，長井隆行(電通大)，橋本敬(北陸先端大)
オーガナイザ：高野　渉(東大)
参　加　者：55名(会員：19名，学生：26名，会員外：5名，賛助優待：1名，賛助半額：4名)

のべ参加者 496名（会員：191名，会員外：206名，学生：47名，賛助優待：23名，同半額：29名）

3．共催事業

国内共催事業：

（1） 第15回ロボティクスシンポジア

期　　日：2010年3月15日(月)・16日(火)
会　　場：吉野山　竹林院群芳園(奈良県)
実行委員長：小笠原司(奈良先端科学技術大学院大学)
プログラム委員長：近野　敦(東北大学)

（2） ロボカップジャパンオープン2010大阪

期　　日：2010年5月2日(日)～4日(火)
会　　場：大阪工業大学大宮キャンパス(大阪府)
企　　画：ロボカップジャパンオープン2010大阪開催委員会
(ロボカップ日本委員会／大阪工業大学)

（3） 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2010

期　　日：2010年6月19日(土)・20日(日)
会　　場：仙台市科学館(宮城県)
主　　催：ロボット競技会実行委員会

（4） 第10回レスキューロボットコンテスト

期　　日：2010年8月7日(土)・8日(日)
会　　場：神戸サンボーホール(兵庫県)
主　　催：レスキューロボットコンテスト実行委員会　兵庫県　神戸市　(株)神戸商工貿易センター　読売新聞大阪本社

（5） 第12回建設ロボットシンポジウム

期　　日：2010年9月7日(火)
会　　場：早稲田大学　国際会議場　井深大記念ホール
主　　催：(社)土木学会，(社)日本建築学会，(社)日本ロボット学会，(財)先端建設技術センター，(社)日本建設機械化協会，(社)日本ロボット工業会

4．出版事業

出版事業委員会を立ち上げ，その内容について検討を開始し，議論を行っている.

III 学　会　誌（定款第4条2号）

学会誌第28巻1号～10号を発行し，会員に配布した．各号の特集テーマは次の通りである.

第28巻1号　ロボット聴覚
第28巻2号　レスキューロボット：災害救助支援システムの現状と今後
第28巻3号　ロボットを進化させる最先端IT技術

第28巻4号　ロボティック・サイエンス
第28巻5号　使えるRTミドルウェア
第28巻6号　生体筋骨格型ロボット
第28巻7号　第27回日本ロボット学会学術講演会論文特集号I
第28巻8号　第27回日本ロボット学会学術講演会論文特集号II
第28巻9号　クォリティ・オブ・ライフのためのロボティクス
第28巻10号　分子ロボティクス

上記のように特集号企画に関しては，本学会の専門性を活かしかつユニークな特集号の企画を進めた．本年度も引き続き学術講演会論文特集号を企画した．これは学術講演会での講演論文から，新しいコンセプトの提案，優れた学術成果，有用な技術に対して論文投稿を推薦し，学術講演会の研究発表件数の2割程度に留まっている論文投稿数の増加を目指したものである．今回は，昨年度，横浜国立大学で開催された第27回学術講演会での講演論文から204件の論文を推薦し，69件の投稿を得，査読結果に基づき最終的に31件の論文を，2号にわたって掲載した．また，さらなる論文投稿数の増加と当学会の対象とする学問領域の拡大を目指して，分野を絞った論文特集号の発行を開始し，その第一弾として「ロボティック・サイエンス」論文特集号を発行した．

年間の論文投稿件数は167件（前年度229件），判定結果は採録可43%（45%），採録不可（再投稿を推薦）32%（33%），採録不可25%（22%）であった．判定までの期間は平均103日，最短41日，最長186日（前年度は112日，53日，266日）で掲載までの期間は平均306日（252日）であった．再投稿を推薦した論文の再投稿率32%（49%），採択率57%（50%）であった．論文採択率の適正化に向けて，「査読者へのお願い」を作成し査読依頼時に配布を開始した．

一般記事に関しては，毎号学会誌の届くのが楽しみになるような企画という観点から，研究者による普段の生活に関連したコラム「研究者の日常 or 非日常」の連載を引き続き行った．学会の報告記事や書評の掲載も引き続き行った．また，ロボット分野の著名な方のインタビューを実施し，それをまとめた記事「この人に聞く」の掲載を準備した．広告については，目標金額600万円に対して達成率は約75%であった．

論文・解説記事等の電子化・アーカイブ化に関しては，第26巻までのバックナンバーのJournal@rchiveからの公開を開始した．最新号については，JSTの提供するJ-STAGEから公開するよう準備し，2月に最新号第29巻1号を公開した．第27巻以降のバックナンバーの公開もJ-STAGEから行うよう準備している．

IV　欧　文　誌（定款第4条2号）

1．欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 24を発行した．各号の詳細は以下の通りである．

24/1-2	2010 Jan.	Regular Issue（14 papers/pp. 1-298）
24/3	Feb.	Advanced Space Robotics（1）（7 papers/pp. 299-466）
24/4	Mar.	Regular Issue（7 papers/pp. 467-626）
24/5-6	Apr.	SF on Cutting Edge of Robotics in Japan 2010（14 papers/pp. 627-942）
24/7	May	Regular Issue（7 papers/139 pages）
24/8-9	Jun.	Regular Issue（sf on Advanced Space Robotics（2））（14 papers/pp. 1079-1404）
24/10	Jul.	New Actuators for Robot Systems（1）（7 papers/pp. 1405-1528）
24/11	Aug.	Regular Issue（7 papers/pp. 1529-1676）
24/12	Sep.	Minimally Invasive and Endoscopic Surgical Robot Systems（5 papers/pp. 1677-1783）
24/13	Oct.	Legal and Safety Constraints for Service Robots Deployment（7 papers/pp. 1785-1926）
24/14	Nov.	New Actuators for Robot Systems（2）（6 papers/pp. 1927-2042）
24/15	Dec.	Regular Issue（7 papers/pp. 2043-2214）

2．論文の投稿，査読の状況

2010年における年間論文投稿総数は323件（一般論文・229件，特集号論文・94件）であった（下表参照）．なお，2009年より一般論文の投稿数が32件増加し，一般論文投稿数は過去最高を記録した．この状況は当該分野の論文投稿先として，欧文誌の評価が高まってきたことの表れと考えている．

投稿論文の採択率は，2010年は35.0%（一般論文31.7%，特集号42.8%）であった．

（参考）国・地域別投稿数の推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
日本	67	85	61	61	54	104	140	92
東アジア	14	22	55	47	58	81	66	101
（うち中国	2	4	20	14	26	50	34	43）
（うち韓国	12	17	27	23	28	26	23	45）
南/東南アジア・中近東	11	14	18	15	26	26	29	46
欧州	17	22	29	40	26	40	53	49
アフリカ	1	1	1	1	2	3	5	6
北・南米	5	14	23	19	19	30	33	27
オセアニア	3	0	0	0	5	4	6	2
合　計	118	158	187	184	190	288	332	323

3．企画／編集／発行作業

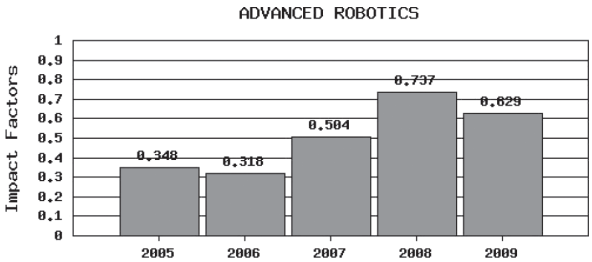
投稿論文数の増加を目指して，昨年同様，日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し，学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った．

4．全員購読化について

会員サービスの一環として，2010年度より，ロボット学会会員の欧文誌全員購読化を実現した．従来までのやや使いにくかった電子ジャーナルの認証システムを改善し，日本ロボット学会のウェブベースでのサービスを行うコンテンツ内で会員認証を行なうことでIngenta社の電子ジャーナルを購読することが可能になった．今後もより良いサービスを広く提供可能になるような取り組みを推し進めていく．

5．国際学術誌としての認知度と評価の向上

・Institute for Scientific Information（ISI）社のCitation Index（インパクトファクタ）の推移を以下に示す．2009年のインパクトファクタは2008年よりもやや減少しており，今後，注意深く見守っていく必要がある．これまでの投稿料無料と迅速な査読による質的・量的両面での向上を維持しつつ，今後，ランキングの上位を目指して評価の向上を図るためにさらなる努力が必要である．



6．共同事業者であるBrill社との契約・交渉

論文投稿数の増大に対応するために，以下のような契約内容の更新を行った．

2011年（Vol. 25）年間発行数：18号（2010年は15号）

1. 会員全員の電子購読料金　24,000ユーロ／年（2010年は21,900ユーロ／年）
2. プリント版　会員価格360ユーロ（送料込み．2010年は300ユーロ）

7．和文誌と欧文誌のあり方について

和文誌担当理事と議論を重ね，意見書をまとめた．主な内容は，学会レベルで，和文誌・欧文誌の位置づけについての議論を進めるべきである，ということである．

V　企　　画

1．研究調査活動（定款第4条3号）

継続の調査研究委員会，研究専門委員会

前年度から継続して，以下の調査研究委員会，研究専門委員会活動を実施.

・ロボット市場創造課題研究専門委員会
（委員長：川村貞夫，2009. 10 発足，I 種）
・生活機能構成学に関する研究専門委員会
（委員長：西田佳史，2009. 10 発足，I 種）
・RT 機能安全研究専門委員会
（委員長：山田陽滋，2009. 4 発足，I 種）
・身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会
（委員長：尾形邦裕，2009. 4 発足，I 種）
・関西ロボット系若手研究者ネットワーク
（委員長：栗田雄一，2009. 4 発足，I 種）
・ヒューロビント研究専門委員会
（委員長：松下光次郎，2009. 4 発足，I 種）
・ロボット教育研究専門委員会
（委員長：佐藤知正，2008. 8 発足，2010. 8 継続，II 種）
・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会
（委員長：長谷川勉，2008. 4 発足，2010. 4 継続，I 種）
・北海道ロボット技術研究専門委員会
（委員長：小林幸徳，2008. 4 発足，2010. 4 継続，I 種）
・カー・ロボティクス研究専門委員会
（委員長：永井正夫，2008. 4 発足，2010. 4 継続，I 種）
・ロボティック・サイエンス研究専門委員会
（委員長：國吉康夫，2008. 4 発足，2010. 4 継続，I 種）
・手の巧みさ研究専門委員会
（委員長：横小路泰義，2007. 1 発足，2009. 1 継続，II 種）
・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会　（委員長：橋本秀紀，2007. 1 発足，2009. 1 継続，II 種）

新規設置の研究専門委員会

基盤分野，先端分野での研究調査活動，地域支部機能の構築，学生やポスドク研究者による自発的な研究コミュニティ形成活動の積極的支援を目指した新たな研究専門委員会を設置した.

・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会　（委員長：成田雅彦，2010. 3 発足，I 種）

2．規約等の制定・整備

・表彰規定の改定
ロボティクスシンポジア研究奨励賞を新設した.
研究奨励賞の選考方法について検討を行った.
・研究専門委員会の活動報告書の提出時期の改定
研究専門委員会の活動報告書の提出時期を改定し，発足月の前月末の提出とした.

3．表彰（定款第 4 条 4 号）

・2010 年 9 月第 28 回学術講演会において，論文賞 4 件，実用化技術賞 1 件，研究奨励賞 11 件，功労賞 3 件，ロボット活用社会貢献賞 2 件の贈賞を行った.
・ファナック FA ロボット財団の論文賞に 3 件を推薦し，内 1 件が論文賞（賞金 100 万円）を受賞した.
・（財）東レ科学振興会の東レ科学技術研究助成に 2 件を推薦した.

【論文賞】

・ロッド駆動型多関節術具とこれを用いた MRI 環境対応小型マスタスレーブマニピュレータ
（日本ロボット学会誌　第 27 巻　第 6 号，pp. 652-660）
岸　宏亮（日立製作所），藤江正克（早稲田大学），橋爪　誠（九州大学），佐久間一郎（東京大学），土肥健純（東京大学）
・人間の直接教示動作の統計的性質に基づいた折り紙ロボットの目標軌道とセンサフィードバック則生成法
（日本ロボット学会誌　第 27 巻　第 6 号，pp. 685-695）
田中健太（京都大学　現：本田技術研究所），木原康之（京都大学），横小路泰義（京都大学　現：神戸大学）
・光学系と画像処理系の速度を整合した高速フォーカスビジョン
（日本ロボット学会誌　第 27 巻　第 7 号，pp. 739-748）
奥　寛雅（東京大学），石川貴彦（日本電信電話），石川正俊（東京大学）
・数式処理によるロボット機構の自由度解析―基本アルゴリズムと適用例―　（日本ロボット学会誌　第 27 巻　第 8 号，pp. 900-909）
有川敬輔（神奈川工科大学）

【実用化技術賞】

・細胞自動培養システム
中嶋勝己，上田澄広[*1]，櫻井　隆，蓮沼仁志（川崎重工業（株）），羽畑　修，金澤秀和（カワサキプラントシステムズ（株）），脇谷滋之（大阪市立大学），田原秀晃（東京大学），下平滋隆（信州大学），植村壽公（（独）産業技術総合研究所）（[*1] 現：兵庫県立大学）

【研究奨励賞】

・青木悠祐（東京農工大学）
超音波検査ロボットによる力サーボ／ビジュアルサーボ切り替え制御に基づいたプローブ走査支援システムの構築／第 27 回学術講演会（3H1-01）
・鮎澤　光（東京大学）
ベースリンクの運動方程式を利用した脚型ロボットの基底力学パラメータの可同定性／第 14 回ロボティクスシンポジア（1A2）
・井柳友宏（東北大学）
高性能 2DOF マイクロ磁気ツールの設計と評価／第 27 回学術講演会（2B1-06）
・黒崎浩介（東京大学）
筋のグルーピングに基づく二次計画法を用いたリアルタイム筋張力推定法／第 27 回学術講演会（2E2-07）
・田中由浩（名古屋工業大学）
バルーンの膨張現象を利用した硬さおよび表面状態のアクティブ触覚センシング／第 14 回ロボティクスシンポジア（1D1）
・辻　俊明（埼玉大学）
拮抗 3 関節筋を模擬するナメクジウオ型ロボットの機構／第 27 回学術講演会（1K3-02）
・勅使河原誠一（電気通信大学）
感圧導電性ゴムを用いた高感度型滑り覚センサの研究開発／第 27 回学術講演会（3I1-04）
・永瀬一貴（慶應義塾大学）
ハプティックペダルによるモバイルハプトのバイラテラル力覚フィードバック制御／第 27 回学術講演会（2M2-05）
・増沢広朗（豊橋技術科学大学）
移動ロボットによる時間制約を考慮した環境情報要約のための視点計画／第 27 回学術講演会（2D1-05）
・森　裕紀（東京大学／科学技術振興機構 ERATO 浅田共創知能システムプロジェクト）
胎児の子宮内環境における触覚と反射的行為の自己組織化／第 27 回学術講演会（3S1-03）
・山崎公俊（東京大学）
生活支援ロボットのためのしわ特徴に基づく衣類発見法／第 27 回学術講演会（2R1-05）

【功労賞】

・原島文雄（首都大学東京）
IROS の創設と運営
・福田敏男（名古屋大学）
Ro-Man の創設ならびに IROS 等の国際会議運営
・柴田智広，栗田雄一（奈良先端科学技術大学院大学）
ポータルサイト“Robotics in Japan 日本の研究室”の開設

【ロボット活用社会貢献賞】

・三菱重工業株式会社　原子力事業本部
原子力発電プラントの検査補修作業におけるロボット技術の活用促進に対する貢献
・株式会社東芝　電力システム社
原子力施設の防災保全作業におけるロボット技術の活用促進に対する貢献

【ファナック FA ロボット財団論文賞】

・村山英之，武居直行，松本邦保，鴻巣仁司，藤本英雄
自動車組立ラインのウィンドウ搭載支援ロボット

（日本ロボット学会誌　第28巻　第5号　pp. 624-630, 2010）

VI　国　　際（定款第4条5号）

1．国際委員会活動

国際委員会では，日本のロボット工学の優位性を保ちながら世界での存在感と地位を確立することを目的とし，このための戦略を策定し実施するための活動，及び国際会議，アジアロボット学会連合を始めとした交流を中心とした活動を行っている．2009年度までに議論した国際戦略にのっとり，1）学会から発信する情報の質と量の充実，2）広報活動，3）研究協力活動，4）海外とのネットワークの構築に向けた取り組みの4点について活動を行った．

2．第28回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

第28回日本ロボット学会学術講演会においても，日本滞在中の外国人研究者の学術講演会への参加を促進し，また，外国人研究者による最先端の発表を会員に提供するため，セッションの司会，発表，質疑応答の全てが英語で行われる国際セッションを設けた．

・合計20件の研究発表，及びARSUの特別シンポジウム7件があり，5テーマ，6セッションとして実施した．会場でのアンケート結果からは，参加者に対しては大変好評であった．

（1）　Humanoids 7件　参加者　32名

（2）　Robotics Research by foreign researcher in Japan 5件　参加者　30名

（3）　Networked Robotics and Ambient Intelligence 4件　参加者　9名

（4）　Modeling of Human Motions and Emotions for Robot Interaction with Humans I 6件　参加者　29名

（5）　Modeling of Human Motions and Emotions for Robot Interaction with Humans II 5件　参加者　30名

（6）　ARSUシンポジウム5件　中国及び韓国から学会紹介　参加者　30名

3．国際交流活動

第4回アジアロボットサミット（4th Asian Robotics Society Summit Meeting（ARSSM））をロボット学会学術講演会と併催で開催した．

・日　　時：2010年9月21日
ARSUメンバー用見学ツアー
a.m. 8：30名古屋東急ホテルからチャーターバスにて出発

見　学　先：三菱電機名古屋工場，トヨタ自動車元町工場，デンソー西尾工場

参　加　者：タイ代表（Suthakorn Mahidol大学教授），韓国代表（Kim名工大准教授 Korea Robotics Society（KROS）），中国代表（Wang千葉工大教授 The CAA Robotics Society（CAA: Chinese Association of Automation）），日本（佐藤監事，脇田理事，横小路理事）
p.m. 7：00 ARSUサミットミーティング兼懇親会（名古屋東急ホテル）

追加参加：シンガポール代表（Chew Temasek工科大学教授 Robotics Society of Singapore），インド代表（柴田奈良先端准教授），日本（榊原会長，川村副会長）

・合意事項

（1）　引き続きARSUの連絡を密にし，次回5thARSSMをIROS 2011の会場で開催する．

（2）　ARSUのWebsite（http://www.asian-robotics.org/）を活動の拠点とし，引き続き充実を図る．

・各国ロボット学会，研究の現状，各学会の受賞論文・技術の紹介．

・若手研究者ネットワークのメーリングリストを作成し，公開する．

・各国事務局担当者リストを掲載する．

・各国のロボット研究者データベースをRSJのRoboticsInJapanを参考に作成依頼．

（3）　MOUの作成

4．国際会議への対応

・ROMAN Steering Committeeへの出席（2010年9月12日21：00-23：00）

・IROS Steering Committeeへの出席（2010年10月18日12：00-17：00）

5．情報発信，その他

・日本ロボット学会英文ホームページの変更への対応．

・Join RSJを5000部印刷し，ROMAN及びIROS会場で配布物に同梱．

6．国際会議共催／協賛

本会に関連する国際会議を共催（6件），協賛（13件），後援（1件）した．

主な共催会議：

・19th IEEE Int'l Workshop on Robot and Human Interactive Communication（RO-MAN 2010）
期日：2010年9月12日～9月15日，会場：Viareggio，Italy

・2010 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems（IROS 2010）
期日：2010年10月18日～10月23日，会場：台北，台湾

【第 2 号議案】

平成 22 年度決算報告

Ⅰ　一般会計

貸　借　対　照　表

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	31,356,180
現　金	392,664
普通預金	21,987,317
振替口座	7,973,789
通常貯金	1,002,410
未収会費	3,442,000
未 収 金	5,398,350
前 払 金	997,595
仮 払 金	1,889,647
流動資産合計	43,083,772
2．固定資産	
（1）基本財産	
定期預金	21,000,000
基本財産合計	21,000,000
（2）特定資産	
退職給付引当資産	8,299,794
特定資産合計	8,299,794
（3）その他固定資産	
電話加入権	153,100
敷　金	63,000
保 証 金	2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100
固定資産合計	32,015,894
資産合計	75,099,666
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未 払 金	2,537,303
前受会費	22,532,000
預 り 金	723,617
仮 受 金	65,000
流動負債合計	28,857,920
2．固定負債	
退職給付引当金	8,299,794
固定負債合計	8,299,794
負債合計	34,157,714
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	40,941,952
（うち基本財産への充当額）	(21,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(　　0)
正味財産合計	40,941,952
負債及び正味財産合計	75,099,666

正味財産増減計算書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	金　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①基本財産運用益	42,000
基本財産受取利息	42,000
②特定資産運用益	2,375
特定資産受取利息	2,375
③受取入会金	540,000
正会員受取入会金	110,000
学生会員受取入会金	430,000
④受取会費	43,480,000
正会員受取会費	30,620,000
学生会員受取会費	5,660,000
賛助会員受取会費	7,200,000
⑤事業収益	50,169,815
会誌掲載事業収益	21,823,725
欧文誌事業収益	1,240,525
学術講演会事業収益	23,409,565
講習会事業収益	3,696,000
⑥雑収益	8,087,262
受取利息	13,819
広告収益	4,542,951
資料頒布収益	2,591,775
雑収益	938,717
⑦他会計からの繰入額	6,079,354
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入額	6,079,354
経常収益計	108,400,806
（2）経常費用	
①事業費	51,721,836
会誌出版費	19,292,293
会誌郵送費	5,847,821
会誌編集費	1,597,530
欧文誌編集費	205,941
欧文誌業務委託費	2,940,000
欧文誌出版費	2,481,051
学術講演会開催費	14,508,310
講習会開催費	1,776,562
電子化運営委員会費	1,624,246
研究専門委員会費	635,396
広告制作費	532,036
表彰費	280,650
②管理費	38,425,747
総会費	798,718
給料手当	15,988,497
臨時雇賃金	3,346,569
退職給付費用	1,696,106
福利厚生費	2,248,194
会議費	442,046
旅費交通費	32,430
通信運搬費	849,308
消耗什器備品費	44,586
消耗品費	439,024
印刷製本費	715,320
光熱水料費	318,413
賃借料	6,919,986
保険料	6,000
諸謝金	1,254,280
租税公課	817,900

会費収納費	1,650,552
雑費	857,818
③その他経常費用	1,203,815
雑損失	1,203,815
④他会計への繰出額	28,736,584
刊行物発行基金への繰出額	17,657,230
学術集会開催基金への繰出額	3,000,000
国際会議及び共催会議開催基金への繰出額	8,079,354
経常費用計	120,087,982
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,687,176
評価損益等計	0
当期経常増減額	△ 11,687,176
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 11,687,176
一般正味財産期首残高	52,629,128
一般正味財産期末残高	40,941,952
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	40,941,952

収　支　計　算　書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	決 算 額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）基本財産運用収入	42,000
基本財産利息収入	42,000
（2）特定資産運用収入	2,375
特定資産利息収入	2,375
（3）入会金収入	540,000
正会員入会金収入	110,000
学生会員入会金収入	430,000
（4）会費収入	43,480,000
正会員会費収入	30,620,000
学生会員会費収入	5,660,000
賛助会員会費収入	7,200,000
（5）事業収入	50,169,815
会誌掲載事業収入	21,823,725
欧文誌事業収入	1,240,525
学術講演会事業収入	23,409,565
講習会事業収入	3,696,000
（6）雑収入	8,087,262
受取利息収入	13,819
広告料収入	4,542,951
資料頒布収入	2,591,775
雑収入	938,717
（7）他会計からの繰入金収入	6,079,354
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入金収入	6,079,354
事業活動収入計	108,400,806
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	51,721,836
会誌出版費支出	19,292,293
会誌郵送費支出	5,847,821
会誌編集費支出	1,597,530
欧文誌編集費支出	205,941
欧文誌業務委託費支出	2,940,000
欧文誌出版費支出	2,481,051
学術講演会開催費支出	14,508,310
講習会開催費支出	1,776,562
電子化運営委員会費支出	1,624,246
研究専門委員会費支出	635,396
調査専門委員会費支出	0
広告制作費支出	532,036
表彰費支出	280,650
（2）管理費支出	36,729,641
総会費支出	798,718
給料手当支出	15,988,497
臨時雇賃金支出	3,346,569
福利厚生費支出	2,248,194
会議費支出	442,046
旅費交通費支出	32,430
通信運搬費支出	849,308
消耗什器備品費支出	44,586
消耗品費支出	439,024
印刷製本費支出	715,320
光熱水料費支出	318,413
賃借料支出	6,919,986
保険料支出	6,000
諸謝金支出	1,254,280
租税公課支出	817,900
会費収納費支出	1,650,552

雑支出	857,818
（3）その他事業活動支出	1,203,815
雑損失支出	1,203,815
（4）他会計への繰入金支出	28,736,584
刊行物発行基金への繰入金支出	17,657,230
学術集会開催基金への繰入金支出	3,000,000
国際会議及び共催会議開催基金への繰入金支出	8,079,354
事業活動支出計	118,391,876
事業活動収支差額	△ 9,991,070
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動支出	
（1）特定資産取得支出	1,696,106
退職給付引当資産取得支出	1,696,106
投資活動支出計	1,696,106
投資活動収支差額	△ 1,696,106
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
予備費支出	
当期収支差額	△ 11,687,176
前期繰越収支差額	28,913,028
次期繰越収支差額	17,225,852

II　刊行物発行基金

貸　借　対　照　表

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．固定資産	
（1）特定資産	
刊行物発行基金	81,402,348
特定資産合計	81,402,348
固定資産合計	81,402,348
資産合計	81,402,348
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未払金	342,770
流動負債合計	342,770
負債合計	342,770
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	81,059,578
（うち特定資産への充当額）	(81,059,578)
正味財産合計	81,059,578
負債及び正味財産合計	81,402,348

正味財産増減計算書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	168,459
受取利息	168,459
②他会計からの繰入額	17,657,230
一般会計からの繰入額	17,657,230
経常収益計	17,825,689
（2）経常費用	
事業費	5,071,561
雑費	5,071,561
経常費用計	5,071,561
評価損益等調整前当期経常増減額	12,754,128
評価損益等計	0
当期経常増減額	12,754,128
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	12,754,128
一般正味財産期首残高	68,305,450
一般正味財産期末残高	81,059,578
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	81,059,578

収　支　計　算　書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	決 算 額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	168,459
受取利息収入	168,459
（2）他会計からの繰入金収入	17,657,230
一般会計からの繰入金収入	17,657,230
事業活動収入計	17,825,689
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	5,071,561
雑支出	5,071,561
事業活動支出計	5,071,561
事業活動収支差額	12,754,128
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
刊行物発行基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
刊行物発行基金へ繰入支出	13,096,898
投資活動支出計	13,096,898
投資活動収支差額	△ 13,096,898
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	△ 342,770
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	△ 342,770

正味財産増減計算書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	145,563
受取利息	145,563
②他会計からの繰入額	3,000,000
一般会計からの繰入額	3,000,000
経常収益計	3,145,563
（2）経常費用	
事業費	2,300,527
雑費	2,300,527
経常費用計	2,300,527
評価損益等調整前当期経常増減額	845,036
評価損益等計	0
当期経常増減額	845,036
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	845,036
一般正味財産期首残高	65,757,642
一般正味財産期末残高	66,602,678
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	66,602,678

III　学術集会開催基金

貸　借　対　照　表

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．固定資産	
（1）特定資産	
学術集会開催基金	66,602,678
特定資産合計	66,602,678
固定資産合計	66,602,678
資産合計	66,602,678
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	66,602,678
（うち特定資産への充当額）	(66,602,678)
正味財産合計	66,602,678
負債及び正味財産合計	66,602,678

収　支　計　算　書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	決 算 額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	145,563
受取利息収入	145,563
（2）他会計からの繰入金収入	3,000,000
一般会計からの繰入金収入	3,000,000
事業活動収入計	3,145,563
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	2,300,527
雑支出	2,300,527
事業活動支出計	2,300,527
事業活動収支差額	845,036
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
学術集会開催基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
学術集会開催基金へ繰入支出	845,036
投資活動支出計	845,036
投資活動収支差額	△ 845,036
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

IV　国際会議および共催会議開催基金

貸　借　対　照　表

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
仮払金	2,988,355
流動資産合計	2,988,355
2．固定資産	
（1）特定資産	
国際会議及び共催会議開催基金	28,480,619
特定資産合計	28,480,619
固定資産合計	28,480,619
資産合計	31,468,974
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	31,468,974
（うち特定資産への充当額）	(28,480,619)
正味財産合計	31,468,974
負債及び正味財産合計	31,468,974

正味財産増減計算書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	6,112,924
受取利息	33,570
雑収益	6,079,354
②他会計からの繰入額	8,079,354
一般会計からの繰入額	8,079,354
経常収益計	14,192,278
（2）経常費用	
①事業費	1,525,084
表彰費	245,226
国際会議派遣費	1,064,288
雑費	215,570
②他会計への繰出額	6,079,354
一般会計への繰出額	6,079,354
経常費用計	7,604,438
評価損益等調整前当期経常増減額	6,587,840
評価損益等計	0
当期経常増減額	6,587,840
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	6,587,840
一般正味財産期首残高	24,881,134
一般正味財産期末残高	31,468,974
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	31,468,974

収　支　計　算　書

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	決算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	6,112,924
受取利息収入	33,570
雑収入	6,079,354
（2）他会計からの繰入金収入	8,079,354
一般会計からの繰入金収入	8,079,354
事業活動収入計	14,192,278
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	1,525,084
表彰費支出	245,226
国際会議派遣費支出	1,064,288
雑支出	215,570
（2）他会計への繰入金支出	6,079,354
一般会計への繰入金支出	6,079,354
事業活動支出計	7,604,438
事業活動収支差額	6,587,840
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
国際会議及び共催会議開催基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
国際会議及び共催会議開催基金へ繰入支出	3,599,485
投資活動支出計	3,599,485
投資活動収支差額	△ 3,599,485
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	2,988,355
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	2,988,355

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

（1）　固定資産の減価償却の方法

減価償却の償却方法は定額法による．

（2）　引当金の計上基準

退職給与引当金は，期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している．

（3）　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込み方式によっている．

2．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
小　　計	21,000,000	0	0	21,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	6,603,688	1,696,106	0	8,299,794
刊行物発行基金	68,305,450	13,096,898	0	81,402,348
学術集会開催基金	65,757,642	845,036	0	66,602,678
国際会議及び共催会議開催基金	24,881,134	3,599,485	0	28,480,619
小　　計	165,547,914	19,237,525	0	184,785,439
合　　計	186,547,914	19,237,525	0	205,785,439

3．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は，次のとおりである．

（単位：円）

科　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	―
小　　計	21,000,000	(0)	(21,000,000)	21,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	8,299,794	―	(0)	(8,299,794)
刊行物発行基金	81,402,348	(0)	(81,059,578)	(342,770)
学術集会開催基金	66,602,678	(0)	(66,602,678)	―
国際会議及び共催会議開催基金	28,480,619	(0)	(28,480,619)	―
小　　計	184,785,439	(0)	(176,142,875)	(8,642,564)
合　　計	205,785,439	(0)	(197,142,875)	(8,642,564)

収支計算書に対する注記

1．資金の範囲

資金の範囲には，現金・預金の他，未収会費，未収金，前払金，仮払金，未払金，前受会費，預り金及び仮受金を含めている．なお，前期末及び当期末残高は，下記 2 に記載するとおりである．

2．次期繰越収支差額の内容は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	27,330,484	31,356,180
未収会費	2,636,000	3,442,000
未収金	6,347,410	5,398,350
前払金	660,403	997,595
仮払金	906,155	4,878,002
合　　計	37,880,452	46,072,127
未払金	3,674,517	2,880,073
前受会費	4,637,000	22,532,000
預り金	640,107	723,617
仮受金	15,800	65,000
合　　計	8,967,424	26,200,690
次期繰越収支差額	28,913,028	19,871,437

3．予算額と決算額との差異が著しい科目及びその理由は，次のとおりである．

（1）　一般会計

科　　目	理　　由
注 1　基本財産利息収入	金利低下
注 2　正会員入会金収入	景気低迷による新入会員の減少
注 3　学術講演会事業収入	参加者が見積より増加
注 4　講習会事業収入	参加者が見積より増加
注 5　受取利息収入	金利低下
注 6　広告料収入	景気低迷による
注 7　欧文誌編集費支出	編集論文数の増加
注 8　電子化運営委員会費支出	会員 WEB サーバ維持費発生による増加
注 9　研究専門委員会費支出	活動低調による
注 10　表彰費支出	学術講演会が表彰経費を一部負担
注 11　旅費交通費支出	遠地出張無し（学術講演会負担）
注 12　消耗什器備品費支出	低額・不確定なため多めの見込額を予算化するため
注 13　印刷製本費支出	講習会開催費支出で一部負担したため
注 14　会費収納費支出	2009 年の会費請求費用が 2010 年に繰越になったため
注 15　退職給付引当資産取得支出	事務局長交代準備金の増加

（2） 特別会計

科　　目	理　　由
刊行物発行基金	
注1　雑支出	会員 WEB システム（会誌発送先登録等，会員情報管理の自動化）開発一時金他
学術集会開催基金	
注1　雑支出	学術講演会一般公開イベント（ロボット展，ハヤブサ展示），他
国際会議及び共催会議開催基金	
注1　雑収入	国内会議・国際会議の余剰金分配
注2　表彰費支出	国内ロボットコンテスト学会賞，国際会議論文賞顕彰
注3　国際会議派遣費支出	アジアロボットサミット開催，国際会議代表者派遣
注4　雑支出	国際会議用サーバ維持費・英文チラシ印刷・海外送付など（予算の雑支出には国際会議派遣費支出を含む）

V　総括表

貸借対照表総括表

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　資産の部						
1．流動資産						
現金預金	31,356,180					31,356,180
現　　金	392,664					392,664
普通預金	21,987,317					21,987,317
振替口座	7,973,789					7,973,789
通常貯金	1,002,410					1,002,410
未収会費	3,442,000					3,442,000
未　収　金	5,398,350					5,398,350
前　払　金	997,595					997,595
仮　払　金	1,889,647			2,988,355		4,878,002
流動資産合計	43,083,772			2,988,355		46,072,127
2．固定資産						
(1)基本財産						
定期預金	21,000,000					21,000,000
基本財産合計	21,000,000					21,000,000
(2)特定資産						
退職給付引当資産	8,299,794					8,299,794
刊行物発行基金		81,402,348				81,402,348
学術集会開催基金			66,602,678			66,602,678
国際会議及び共催会議開催基金				28,480,619		28,480,619
特定資産合計	8,299,794	81,402,348	66,602,678	28,480,619		184,785,439
(3)その他固定資産						
電話加入権	153,100					153,100
敷　　金	63,000					63,000
保　証　金	2,500,000					2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100					2,716,100
固定資産合計	32,015,894	81,402,348	66,602,678	28,480,619		208,501,539
資産合計	75,099,666	81,402,348	66,602,678	31,468,974		254,573,666
Ⅱ　負債の部						
1．流動負債						
未　払　金	2,537,303	342,770				2,880,073
前受会費	22,532,000					22,532,000
預　り　金	723,617					723,617
仮　受　金	65,000					65,000
流動負債合計	25,857,920	342,770				26,200,690
2．固定負債						
退職給付引当金	8,299,794					8,299,794
固定負債合計	8,299,794					8,299,794
負債合計	34,157,714	342,770				34,500,484
Ⅲ　正味財産の部						
一般正味財産	40,941,952	81,059,578	66,602,678	31,468,974		220,073,182
正味財産合計	40,941,952	81,059,578	66,602,678	31,468,974		220,073,182
負債及び正味財産合計	75,099,666	81,402,348	66,602,678	31,468,974		254,573,666

正味財産増減計算書総括表

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部						
1．経常増減の部						
(1)経常収益						
①基本財産運用益	42,000					42,000
基本財産受取利息	42,000					42,000
②特定資産運用益	2,375					2,375
特定資産受取利息	2,375					2,375
③受取入会金	540,000					540,000
正会員受取入会金	110,000					110,000
学生会員受取入会金	430,000					430,000
④受取会費	43,480,000					43,480,000
正会員受取会費	30,620,000					30,620,000
学生会員受取会費	5,660,000					5,660,000
賛助会員受取会費	7,200,000					7,200,000
⑤事業収益	50,169,815					50,169,815
会誌掲載事業収益	21,823,725					21,823,725
欧文誌事業収益	1,240,525					1,240,525
学術講演会事業収益	23,409,565					23,409,565
講習会事業収益	3,696,000					3,696,000
⑥雑収益	8,087,262	168,459	145,563	6,112,924		14,514,208
受取利息	13,819	168,459	145,563	33,570		361,411
広告収益	4,542,951					4,542,951
資料頒布収益	2,591,775					2,591,775
雑収益	938,717			6,079,354		7,018,071
⑦他会計からの繰入額	6,079,354	17,657,230	3,000,000	8,079,354	△34,815,938	0
一般会計からの繰入額	0	17,657,230	3,000,000	8,079,354	△28,736,584	0
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入額	6,079,354				△6,079,354	0
経常収益計	108,400,806	17,825,689	3,145,563	14,192,278	△34,815,938	108,748,398
(2)経常費用						
①事業費	51,721,836	5,071,561	2,300,527	1,525,084		60,619,008
会誌出版費	19,292,293					19,292,293
会誌郵送費	5,847,821					5,847,821
会誌編集費	1,597,530					1,597,530
欧文誌編集費	205,941					205,941
欧文誌業務委託費	2,940,000					2,940,000
欧文誌出版費	2,481,051					2,481,051
学術講演会開催費	14,508,310					14,508,310
講習会開催費	1,776,562					1,776,562
電子化運営委員会費	1,624,246					1,624,246
研究専門委員会費	635,396					635,396
広告制作費	532,036					532,036
表彰費	280,650			245,226		525,876
国際会議派遣費	0			1,064,288		1,064,288
雑費	0	5,071,561	2,300,527	215,570		7,587,658
②管理費	38,425,747					38,425,747
総会費	798,718					798,718
給料手当	15,988,497					15,988,497
臨時雇賃金	3,346,569					3,346,569
退職給付費用	1,696,106					1,696,106
福利厚生費	2,248,194					2,248,194
会議費	442,046					442,046
旅費交通費	32,430					32,430
通信運搬費	849,308					849,308
消耗什器備品費	44,586					44,586
消耗品費	439,024					439,024
印刷製本費	715,320					715,320
光熱水料費	318,413					318,413
賃借料	6,919,986					6,919,986
保険料	6,000					6,000
諸謝金	1,254,280					1,254,280
租税公課	817,900					817,900
会費収納費	1,650,552					1,650,552
雑費	857,818					857,818
③その他経常費用	1,203,815					1,203,815
雑損失	1,203,815					1,203,815
④他会計への繰出額	28,736,584			6,079,354	△34,815,938	0
一般会計への繰出額	0			6,079,354	△6,079,354	0
刊行物発行基金への繰出額	17,657,230				△17,657,230	0
学術集会開催基金への繰出額	3,000,000				△3,000,000	0
国際会議及び共催会議開催基金への繰出額	8,079,354				△8,079,354	0
経常費用計	120,087,982	5,071,561	2,300,527	7,604,438	△34,815,938	100,248,570
評価損益等調整前当期経常増減額	△11,687,176	12,754,128	845,036	6,587,840		8,499,828
評価損益等計	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△11,687,176	12,754,128	845,036	6,587,840		8,499,828
2．経常外増減の部						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0		0
(2)経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	△11,687,176	12,754,128	845,036	6,587,840		8,499,828
一般正味財産期首残高	52,629,128	68,305,450	65,757,642	24,881,134		211,573,354
一般正味財産期末残高	40,941,952	81,059,578	66,602,678	31,468,974		220,073,182
Ⅱ　指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0		0
Ⅲ　正味財産期末残高	40,941,952	81,059,578	66,602,678	31,468,974		220,073,182

収支計算書総括表

平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及共催会議開催基金	内部取引消去	合計
Ⅰ　事業活動収支の部						
1．事業活動収入						
(1)基本財産運用収入	42,000					42,000
基本財産利息収入	42,000					42,000
(2)特定資産利息収入	2,375					2,375
特定資産利息収入	2,375					2,375
(3)入会金収入	540,000					540,000
正会員入会金収入	110,000					110,000
学生会員入会金収入	430,000					430,000
(4)会費収入	43,480,000					43,480,000
正会員会費収入	30,620,000					30,620,000
学生会員会費収入	5,660,000					5,660,000
賛助会員会費収入	7,200,000					7,200,000
(5)事業収入	50,169,815					50,169,815
会誌掲載事業収入	21,823,725					21,823,725
欧文誌事業収入	1,240,525					1,240,525
学術講演会事業収入	23,409,565					23,409,565
講習会事業収入	3,696,000					3,696,000
(6)雑収入	8,087,262	168,459	145,563	6,112,924		14,514,208
受取利息収入	13,819	168,459	145,563	33,570		361,411
広告料収入	4,542,951					4,542,951
資料頒布収入	2,591,775					2,591,775
雑　収　入	938,717			6,079,354		7,018,071
(7)他会計からの繰入金収入	6,079,354	17,657,230	3,000,000	8,079,354	△34,815,938	0
一般会計からの繰入金収入		17,657,230	3,000,000	8,079,354	△28,736,584	0
国際会議及共催会議開催基金から繰入金収入	6,079,354				△6,079,354	0
事業活動収入計	108,400,806	17,825,689	3,145,563	14,192,278	△34,815,938	108,748,398
2．事業活動支出						
(1)事業費支出	51,721,836	5,071,561	2,300,527	1,525,084		60,619,008
会誌出版費支出	19,292,293					19,292,293
会誌郵送費支出	5,847,821					5,847,821
会誌編集費支出	1,597,530					1,597,530
欧文誌編集費支出	205,941					205,941
欧文誌業務委託費支出	2,940,000					2,940,000
欧文誌出版費支出	2,481,051					2,481,051
学術講演会開催費支出	14,508,310					14,508,310
講習会開催費支出	1,776,562					1,776,562
電子化運営委員会費支出	1,624,246					1,624,246
研究専門委員会費支出	635,396					635,396
広告制作費支出	532,036					532,036
表彰費支出	280,650			245,226		525,876
国際会議派遣費支出	0			1,064,288		1,064,288
雑　支　出	0	5,071,561	2,300,527	215,570		7,587,658
(2)管理費支出	36,729,641					36,729,641
総会費支出	798,718					798,718
給料手当支出	15,988,497					15,988,497
臨時雇賃金支出	3,346,569					3,346,569
福利厚生費支出	2,248,194					2,248,194
会議費支出	442,046					442,046
旅費交通費支出	32,430					32,430
通信運搬費支出	849,308					849,308
消耗什器備品費支出	44,586					44,586
消耗品費支出	439,024					439,024
印刷製本費支出	715,320					715,320
光熱水料費支出	318,413					318,413
賃借料支出	6,919,986					6,919,986
保険料支出	6,000					6,000
諸謝金支出	1,254,280					1,254,280
租税公課支出	817,900					817,900
会費収納費支出	1,650,552					1,650,552
雑　支　出	857,818					857,818
(3)その他事業活動支出	1,203,815					1,203,815
雑損失支出	1,203,815					1,203,815
(4)他会計への繰入金支出	28,736,584			6,079,354	△34,815,938	0
一般会計への繰入金支出				6,079,354	△6,079,354	0
刊行物発行基金への繰入金支出	17,657,230				△17,657,230	0
学術集会開催基金への繰入金支出	3,000,000				△3,000,000	0
国際会議及共催会議開催基金への繰入金支出	8,079,354				△8,079,354	0
事業活動支出計	118,391,876	5,071,561	2,300,527	7,604,438	△34,815,938	98,552,464
事業活動収支差額	△9,991,070	12,754,128	845,036	6,587,840	0	10,195,934
Ⅱ　投資活動収支の部						
1．投資活動支出						
(1)特定資産取得支出	1,696,106					1,696,106
退職給付引当資産取得支出	1,696,106					1,696,106
(2)基金への繰入支出		13,096,898	845,036	3,599,485		17,541,419
刊行物発行基金繰入支出		13,096,898				13,096,898
学術集会開催基金繰入支出			845,036			845,036
国際会議及び共催会議開催基金繰入支出				3,599,485		3,599,485
投資活動支出計	1,696,106	13,096,898	845,036	3,599,485		19,237,525
投資活動収支差額	△1,696,106	△13,096,898	△845,036	△3,599,485		△19,237,525
Ⅲ　財務活動収支の部						
財務活動収支差額	0	0	0	0		0
Ⅳ　予備費支出						
予備費支出						
当期収支差額	△11,687,176	△342,770	0	2,988,355	0	△9,041,591
前期繰越収支差額	28,913,028	0	0	0	0	28,913,028
次期繰越収支差額	17,225,852	△342,770	0	2,988,355	0	19,871,437

お　知　ら　せ

財　産　目　録

平成 22 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科目			金額		
Ⅰ　資産の部					
1　流動資産					
現金預金					
現金	手許有高		392,664		
普通預金	三菱東京 UFJ 銀行本店		7,637,565		
〃	みずほ銀行本郷支店		7,110,176		
〃	みずほ銀行本郷支店		2,520,426		
〃	りそな銀行本郷支店		4,719,150		
振替口座	ゆうちょ銀行		7,973,789		
通常貯金	ゆうちょ銀行		1,002,410		
未収会費	平成 22 年度会費 481 名・3 口分		3,442,000		
未収金	学会誌投稿料・広告料他		5,398,350		
前払金	平成 23 年 1 月分事務所家賃他		997,595		
仮払金	研究専門委員会費		1,889,647		
〃	IROS2009・2011 分担金		2,988,355		
	流動資産合計			46,072,127	
2　固定資産					
（1）　基本財産					
定期預金	基本財産（三菱東京 UFJ 銀行本店）		21,000,000		
	基本財産合計		21,000,000		
（2）　特定資産					
退職給付引当資産	普通預金	三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	8,299,794		
刊行物発行基金	普通預金	三井住友銀行小石川支店	26,237,348		
〃	定期預金	三井住友銀行小石川支店	55,165,000		
学術集会開催基金	普通預金	三菱 UFJ 信託銀行本店	6,602,678		
〃	定期預金	三菱 UFJ 信託銀行本店	60,000,000		
国際会議および	普通預金	みずほ銀行本郷支店	10,450,619		
共催会議開催基金	定期預金	みずほ銀行本郷支店	18,030,000		
	特定資産合計		184,785,439		
（3）　その他固定資産					
電話加入権	2 本		153,100		
敷金	賃貸借契約敷金		63,000		
保証金	賃貸借契約保証金		2,500,000		
	その他固定資産合計		2,716,100		
	固定資産合計			208,501,539	
	資産合計				254,573,666
Ⅱ　負債の部					
1　流動負債					
未払金	会誌事業費他		2,537,303		
〃	理事交通費		342,770		
前受会費	会費前受分		22,532,000		
預り金	源泉所得税		226,485		
〃	住民税		46,700		
〃	社会保険料		450,432		
仮受金	会費誤入金分		65,000		
	流動負債合計			26,200,690	
2　固定負債					
退職給付引当金	退職給付分		8,299,794		
	固定負債合計			8,299,794	
	負債合計				34,500,484
	正味財産				220,073,182

監査報告書

一般社団法人　日本ロボット学会
会　　長　榊　原　伸　介　殿

私共監事2名は，この総会資料に記載されている平成22年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計，刊行物発行基金，学術集会開催基金，国際会議および共催会議開催基金に関する貸借対照表，正味財産増減計算書，収支計算書及び財産目録などにつき監査を実施しました．

監査の結果，いずれも特例民法法人（公益法人）の会計基準に準拠しつつ，前年度と同一の会計方針を適用しており，また定款の定めに準拠しているものと認めます．

以　上

平成23年3月25日
一般社団法人日本ロボット学会

監　事　内　山　　勝　㊞
監　事　佐　藤　知　正　㊞

【第3号議案】

平成23年度　事業計画案

（自 平成23年1月1日　至 平成23年12月31日）

I　庶　　務

1．第1回定時総会

会　期：平成23年3月29日（火）

会　場：本郷瀬川ビル

2．委員会活動

下記の委員会を開催する．

（1）　会誌編集委員会　（委員長：佐野明人）
（2）　欧文誌委員会　（委員長：細田　耕）
（3）　事業計画委員会　（委員長：梅田和昇）
（4）　国際委員会　（委員長：横小路泰義）
（5）　研究協議会　（委員長：淺間　一）
（6）　出版事業委員会　（委員長：梅田和昇）
（7）　電子化運営委員会　（委員長：小平紀生）
（8）　アドバイザリーボード　（委員長：川村貞夫）
（9）　将来ビジョン策定委員会　（委員長：川村貞夫）
（10）　事務局体制検討委員会　（委員長：小平紀生）
（11）　第29回学術講演会実行委員会　（委員長：水川　真）
（12）　表彰委員会　（委員長：淺間　一）
（13）　第25回論文賞選考小委員会　（委員長：小平紀生）
（14）　第26回研究奨励賞選考小委員会　（委員長：川村貞夫）
（15）　第27回研究奨励賞選考小委員会　（委員長：小平紀生）
（16）　第16回実用化技術賞選考小委員会　（委員長：淺間　一）
（17）　第4回功労賞選考小委員会　（委員長：小平紀生）
（18）　第3回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会　（委員長：淺間　一）
（19）　第1回ロボティクスシンポジア研究奨励賞選考小委員会　（委員長：小平紀生）
（20）　外部表彰選考小委員会　（委員長：淺間　一）
（21）　会員5000名拡大計画委員会　（委員長：小平紀生）
（22）　著作権管理委員会　（委員長：淺間　一）
（23）　学術講演会管理推進委員会　（委員長：淺間　一）

3．役員の選出

平成23年度の理事・監事を選出する．

4．フェロー，名誉会員の選任

フェロー，名誉会員の推薦を行い選任する．

5．学会の基盤強化

会員の拡大，論文発表の活性化をめざし，広報活動，産業貢献活動の強化，学会誌の充実を通して，学会の知名度向上をはかる．また，非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動，高齢者層会員，学生会員が会員継続したくなる価値の創出若年層への啓発活動を継続実施する．

6．電子化運営委員会

（1）　学会DBをもとに，会員限定サービスとして，学会員の個人情報データベース編集・検索機能を設け，さらに会員名簿の電子化を実施する．

（2）　学会ホームページを通じた会員サービス拡大を目指し，コンテンツの拡充をはかる．

7．事務局

中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する．

II　事　　業（定款第4条1号）

1．学術講演会・シンポジウム等

（1）　第29回学術講演会

期　　日：2011年9月7日(水)～9日(金)

会　　場：芝浦工業大学

実行委員長：水川　真(芝浦工業大学)

プログラム委員長：長谷川泰久(筑波大学)

2．ロボット工学セミナー

（1）　第62回シンポジウム「ロボットに使える画像処理技術の最前線」

期　　日：2011年5月(予定)

オーガナイザ：奥田晴久(三菱電機(株))

（2）　第63回シンポジウム「ロボットの作り方2011」

期　　日：2011年6月(予定)

オーガナイザ：高山俊男(東京工業大学)，山田浩也(東京工業大学)

（3）　第64回シンポジウム「人と共生するロボットのインタラクション技術」

期　　日：2011年7月(予定)関西地区にて開催予定

オーガナイザ：山口智治(日本電気(株))

（4）　第65回シンポジウム「実用ロボット―誕生秘話と今後の展望」

期　　日：2011年9月（予定）学術講演会に合わせて開催予定

オーガナイザ：十倉征司((株)東芝)，日高洋士((株)富士通研究所)

（5）　第66回シンポジウム「動物に見る賢さと巧みさ～新しいロボットへの道標～」

期　　日：2011年9月（予定）

オーガナイザ：鍋嶌厚太（CYBERDYNE（株））

（6）　第67回シンポジウム「最新シミュレーション技術とロボティクス」

期　　日：2011年10月(予定)

オーガナイザ：坂本守行(川崎重工業(株))

（7）　第68回シンポジウム「ロボティクスにおける認識・物体操作のための触覚技術」

期　　日：2011年11月(予定)

オーガナイザ：山野辺夏樹(産業技術総合研究所)

3．共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う．

国内共催事業（予定を含む）：

（1）　第16回ロボティクスシンポジア

期　　日：2011年3月14日(月)・15日(火)

会　　場：指宿シーサイドホテル(鹿児島県)

実行委員長：余　　永(鹿児島大学)

プログラム委員長：栗栖正充(東京電機大学)

（2）　ロボカップジャパンオープン2011

期　　日：2011年5月3日(火)～5日(木)

開　催　地：インテックス大阪

（3）　第11回レスキューロボットコンテスト

期　　日：2011年6月26日(日)・8月6日(土)～8日(日)

開　催　地：神戸サンボーホール

4．出版事業

出版事業委員会における議論を継続する．

III　学　会　誌（定款第4条2号）

学会誌第29巻第1号より第10号を，1月，3月，4月，5月，6月，7月，9月，10月，11月，12月に刊行し，会員に配布する．各号の特集テーマは以下のものを予定している．

第29巻1号　ソーシャルロボットと人間理解
第29巻2号　研究者がロボットを伝えるために
第29巻3号　人と接するロボットの研究を考える
第29巻4号　ロボット技術の国際標準（仮）
第29巻5号　確率理論のロボティクス応用（仮）
第29巻6号　機構の知と技（仮）
第29巻7号　第28回日本ロボット学会学術講演会論文特集号Ⅰ（仮）
第29巻8号　第28回日本ロボット学会学術講演会論文特集号Ⅱ（仮）
第29巻9号　ロボットの安全コンポーネント（仮）
第29巻10号　人とロボット共生学（仮）

また，平成23年度は，前年度に引き続き，魅力的な特集号の企画，一般記事の企画，広告の取得，会誌関連記事の出版化などについて取り組む．特に，第30巻において30周年記念号を発行することになっており，その企画・準備を行う．論文採択率の適正化に向けた検討は，論文カテゴリの見直しや査読方法の見直しも含めて引き続き行うと同

時に，規則集の見直しを行う．学術講演会論文特集号に加え，一昨年度に開始した特定のテーマの論文を公募する形の論文特集号について，公募テーマの検討を行う．

広告に関しては，昨今の経済状況を考慮して広告収入目標を500万円と設定し，具体的に達成に向けた取り組みを行う．

ロボコンマガジンに連載している研究紹介を継続して行う．

一般記事に関しては，最新のキーワードをわかり易く説明する解説の掲載を開始する．また，コラム「研究者の日常 or 非日常」の掲載，およびロボット分野の著名な方のインタビューをまとめた形式の記事「この人に聞く」の掲載を継続して行う．

第27巻以降のバックナンバーの公開をJ-STAGEから行う．これにより，論文・解説記事等の電子化・アーカイブ化は完了する．論文に関連する動画の受付を開始する．

中長期目標として，学会誌の掲載解説記事の英文化や，和文論文のFull translationによる欧文誌への掲載，など欧文誌との連携について検討する．また，学会誌の12号化についても引き続き検討を行う．

IV　欧　文　誌（定款第4条2号）

1．欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり，2011年度においてはVol. 25を年18巻発行することを計画している．

25/1-2		Dec.	Regular Issue（13 papers/pp 1-288）
25/3-4	2011	Feb.	Cutting Edge of Robotics in Japan 2011（11 papers）
25/5		Mar.	Physical Human-Robot Interaction Through Force Interface（7 papers）
25/6-7		Apr.	Regular Issue（13 papers）
25/8		May.	Cordless Technology for Milli/Micro/Nano Robots（6 papers）
25/9-10		Jun.	Regular Issue（13 papers）
25/11		Jul.	Rehabilitation Robotics on Mobility & Manipulation
25/12-13		Aug.	Regular Issue
25/14		Sep.	Regular Issue
25/15		Oct.	Dynamical System Involving Symbol Processing
25/16-17		Nov.	Regular Issue
25/18		Dec.	Regular Issue

2．編集体制

2010年度に引き続き菅野重樹編集長の下，15名の欧文誌委員会メンバーを中心に，国際編集委員，アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら，欧文誌Advanced Roboticsの国際的認知度向上，さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく．

3．欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2011年度から，年間18号への増加によって，一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られると考えられるので，今後は積極的かつ戦略的な特集号企画を行い，国際的な認知度のさらなる向上を図るとともに，Citation Indexの評価（インパクトファクタ）の向上を目指していきたい．さらに，国際貢献の意味も含め，国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として，投稿料無料を堅持する．

4．国際化に向けての活動

2011年も主要な国際会議（IROS2011）にあわせて国際編集委員会を開催し，海外委員による特集号企画などを通して，国際的認知度を高める努力を行っていく．また，国際貢献のために，ロボット学会の外国人会員の増加，日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく．また，国際委員会の活動に協力し，アジアロボット学会連合（ARSU: Asian Robotics Society Union）の参加学会との協力体制強化，パンフレットの国際会議場などでの配布，ウェブの英語コンテンツ充実，等を実施する．

V　企　　画

1．調査・研究専門委員会活動（定款第4条3号）

以下の研究専門委員会による委員会調査活動を行う．

・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会　（委員長：成田雅彦，2010. 3発足，I種）
・ロボット市場創造課題研究専門委員会　（委員長：川村貞夫，2009. 10発足，I種）
・生活機能構成学に関する研究専門委員会　（委員長：西田佳史，2009. 10発足，I種）
・RT機能安全研究専門委員会　（委員長：山田陽滋，2009. 4発足，I種）
・身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会　（委員長：尾形邦裕，2009. 4発足，I種）
・関西ロボット系若手研究者ネットワーク　（委員長：栗田雄一，2009. 4発足，I種）
・ヒューロビント研究専門委員会　（委員長：松下光次郎，2009. 4発足，I種）
・ロボット教育研究専門委員会　（委員長：琴坂信哉，2008. 8発足，2010. 8継続，II種）
・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会　（委員長：山本元司，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・北海道ロボット技術研究専門委員会　（委員長：小林幸徳，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・カー・ロボティクス研究専門委員会　（委員長：永井正夫，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・ロボティック・サイエンス研究専門委員会　（委員長：國吉康夫，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・手の巧みさ研究専門委員会　（委員長：星野　聖，2007. 1発足，2011. 1継続，II種）
・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会　（委員長：新妻実保子，2007. 1発足，2011. 1継続，II種）

ただし，ロボット市場創造課題研究専門委員会，身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会については，当初の目的を達成した等の理由により，2011年3月末日をもって終了とする．

2．規約等の制定・整備

学会運営の効率化・適正化，学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく．

3．表彰（定款第4条4号）

第29回学術講演会において論文賞，実用化技術賞，研究奨励賞，功労　賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う．また，本年度以降も財団法人ファナックFAロボット財団の論文賞への候補論文の推薦，財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う．

VI　国　　際（定款第4条5号）

平成23年度は，平成22年度の活動を継続し，着実にアジア全体のロボット学会との関係を積み上げていく方針である．

1．国際委員会による国際化戦略活動の具体化

国際委員会が中心となって，（1）学会から発信する情報の質と量の充実，（2）広報活動，（3）研究協力活動，（4）海外とのネットワークの構築に向けた取り組み等に関する学会としての具体的な取り組み及びミッションステートメントを検討していく．

2．第29回学術講演会における国際セッション

第29回学術講演会においても，国際セッションを実施する．論文投稿方法，セッション構成の方法を改善できないか検討する．新しいオーガナイズ土セッションの企画を検討する．

3．国際交流活動

（1）　第5回アジアロボットサミット（5th Asian Robotics Society Summit Meeting（ARSSM））の開催日時，場所は，IROS2011時にサンフランシスコで開催する．

（2）　アジアロボット学会連合（ARSU：Asian Robotics Society Union）の活動

1）ARSUのウェブサイトhttp://www.asian-robotics.org/の拡充を行う．

・MOUの承認後，掲載．
・各国事務局の掲載．
・解説記事や各国の代表的な研究成果を掲載するページを設け，研究成果の共有を図る．

2）アジアロボットサミットの合意事項を推進する．
・Young Researchers Network を設ける．
・ARSU 主催の国際会議の開催の検討．
・教科書等の翻訳を含む教育の推進協力．

（3） 韓国ロボット学会（KROS）との MOU の見直し
・MOU に記載された KROS 会員の AR 購読条件が，AR の全員購読無料化に伴い不可能となったことに対応したため，MOU の見直しが必要である．

4．国際会議

ROMAN, IROS を利用した日本ロボット学会のプレゼンス向上の方法を検討する．また，若手研究者支援，ポスター，パワーポイント等を利用した積極的広報活動についても検討を行う．

5．情報発信，その他

（1） 英文ホームページの更新，改善
国際化に有効と考えられるコンテンツの検討を行い，ホームページの改善に取り組む．

（2） 英文ポスター等の検討
国際会議会場における RSJ の効果的な宣伝媒体について検討する．

（3） 国際関係の 30 周年事業の検討
国際委員会として，ロボット学会 30 周年事業について検討する．

6．国際会議共催／協賛

本学会に協賛，後援の依頼のあった国際会議，講演会等については，会員に有益と判断されるものについては積極的に協賛，後援を行い，RSJ の広報活動の場としても活用する．共催に関しては，運営主体の信頼性，また予算案の妥当性を検討して決定する．現在の共催予定は下記の通りである．

・第 16 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム（AROB 16th '11）
期日：2011 年 1 月 27 日～ 1 月 29 日，会場：大分，日本
・2011 Robotics：Science & Systems（RSS2011）
期日：2011 年 6 月 27 日～ 6 月 30 日，会場：Los Angeles，USA
・20th IEEE International Symposium in Robot and Human Interactive Communication（RO-MAN 2011）
期日：2011 年 7 月 31 日～ 8 月 3 日，会場：Atlanta，USA
・2011 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems（IROS 2011）
期日：2011 年 9 月 25 日～ 9 月 30 日，会場：San Francisco，USA

【第 4 号議案】

平成 23 年度予算計画案

Ⅰ　一般会計

平成 23 年度収支予算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	予算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）基本財産運用収入	85,000
基本財産利息収入	85,000
（2）特定資産運用収入	0
特定資産利息収入	0
（3）入会金収入	550,000
正会員入会金収入	150,000
学生会員入会金収入	400,000
（4）会費収入	41,960,000
正会員会費収入	30,000,000
学生会員会費収入	5,000,000
賛助会員会費収入	6,960,000
（5）事業収入	39,890,000
会誌掲載事業収入	16,000,000
欧文誌事業収入	1,580,000
学術講演会事業収入	19,700,000
講習会事業収入	2,610,000
（6）雑収入	8,430,000
受取利息収入	30,000
広告料収入	5,000,000
資料頒布収入	2,400,000
雑収入	1,000,000
（7）他会計からの繰入金収入	4,250,000
刊行物発行基金からの繰入金収入	4,250,000
事業活動収入計	95,165,000
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	55,468,740
会誌出版費支出	20,000,000
会誌郵送費支出	5,300,000
会誌編集費支出	1,552,000
欧文誌編集費支出	175,500
欧文誌業務委託費支出	3,060,000
欧文誌出版費支出	2,880,000
学術講演会開催費支出	14,887,000
講習会開催費支出	1,716,000
電子化運営委員会費支出	1,398,240
研究専門委員会費支出	3,500,000
調査専門委員会費支出	100,000
広告制作費支出	500,000
表彰費支出	400,000
（2）管理費支出	40,386,000
総会費支出	800,000
給料手当支出	16,750,000
臨時雇賃金支出	3,500,000
退職給付支出	2,500,000
福利厚生費支出	2,500,000
会議費支出	400,000
旅費交通費支出	100,000
通信運搬費支出	800,000
消耗什器備品費支出	100,000
消耗品費支出	400,000
印刷製本費支出	1,000,000
光熱水料費支出	330,000
賃借料支出	7,000,000
保険料支出	6,000
支払手数料支出	260,000
諸会費支出	260,000
諸謝金支出	1,300,000
租税公課支出	1,000,000
会費収納費支出	1,000,000
雑支出	380,000
（3）その他事業活動支出	1,000,000
雑損失支出	1,000,000
事業活動支出計	96,854,740
事業活動収支差額	△ 1,689,740
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
（1）特定資産取崩収入	2,500,000
退職給付引当資産取得収入	2,500,000
投資活動収入計	2,500,000
2．投資活動支出	
（1）特定資産取得支出	800,000
退職給付引当資産取得支出	800,000
投資活動支出計	800,000
投資活動収支差額	1,700,000
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
予備費支出	0
当期収支差額	10,260
前期繰越収支差額	17,225,852
次期繰越収支差額	17,236,112

（注）1．借入金限度額 0 円
　　2．債務負担金 0 円

Ⅱ　刊行物発行基金

平成 23 年度収支予算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	予算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）事業収入	0
（2）雑収入	50,000
受取利息収入	50,000
雑収入	0
事業活動収入計	50,000
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	700,000
雑支出	700,000
（2）雑損失支出	0
（3）他会計への繰入金支出	4,250,000
一般会計への繰入金支出	4,250,000
事業活動支出計	4,950,000
事業活動収支差額	△ 4,900,000
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
刊行物発行基金取崩収入	5,242,770
投資活動収入計	5,242,770
2．投資活動支出	
刊行物発行基金へ繰入支出	0
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	5,242,770
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
当期収支差額	342,770
前期繰越収支差額	△ 342,770
次期繰越収支差額	0

Ⅲ　学術集会開催基金

平成 23 年度収支予算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	予算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）事業収入	0
（2）雑収入	50,000
受取利息収入	50,000
雑収入	0
事業活動収入計	50,000
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	3,433,000
表彰費支出	400,000
委託費支出	2,413,000
雑支出	620,000
（2）雑損失支出	0
事業活動支出計	3,433,000
事業活動収支差額	△ 3,383,000
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
学術集会開催基金取崩収入	3,383,000
投資活動収入計	3,383,000
2．投資活動支出	
学術集会開催基金へ繰入支出	0
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	3,383,000
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

Ⅳ　国際会議および共催会議開催基金

平成 23 年度収支予算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	予算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）事業収入	0
（2）雑収入	1,020,000
受取利息収入	20,000
雑収入	1,000,000
事業活動収入計	1,020,000
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	1,230,000
表彰費支出	0
国際会議派遣費支出	1,080,000
雑支出	150,000
（2）雑損失支出	0
事業活動支出計	1,230,000
事業活動収支差額	△ 210,000
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
国際会議及び共催会議開催基金取崩収入	210,000
投資活動収入計	210,000
投資活動収支差額	210,000
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	2,988,355
次期繰越収支差額	2,988,355

平成 23 年度収支予算書総括表

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
(1)基本財産運用収入	85,000					85,000
基本財産利息収入	85,000					85,000
(2)特定資産利息収入	0					0
特定資産利息収入	0					0
(3)入会金収入	550,000					550,000
正会員入会金収入	150,000					150,000
学生会員入会金収入	400,000					400,000
(4)会費収入	41,960,000					41,960,000
正会員会費収入	30,000,000					30,000,000
学生会員会費収入	5,000,000					5,000,000
賛助会員会費収入	6,960,000					6,960,000
(5)事業収入	39,890,000					39,890,000
会誌掲載事業収入	16,000,000					16,000,000
欧文誌事業収入	1,580,000					1,580,000
学術講演会事業収入	19,700,000					19,700,000
講習会事業収入	2,610,000					2,610,000
(6)雑収入	8,430,000	50,000	50,000	1,020,000		9,550,000
受取利息収入	30,000	50,000	50,000	20,000		150,000
広告料収入	5,000,000					5,000,000
資料頒布収入	2,400,000					2,400,000
雑収入	1,000,000			1,000,000		2,000,000
(7)他会計からの繰入金収入	4,250,000				△4,250,000	0
刊行物発行基金からの繰入金収入	4,250,000				△4,250,000	0
事業活動収入計	95,165,000	50,000	50,000	1,020,000	△4,250,000	92,035,000
2. 事業活動支出						
(1)事業費支出	55,468,740	700,000	3,433,000	1,230,000		60,831,740
会誌出版費支出	20,000,000					20,000,000
会誌郵送費支出	5,300,000					5,300,000
会誌編集費支出	1,552,000					1,552,000
欧文誌編集費支出	175,500					175,500
欧文誌業務委託費支出	3,060,000					3,060,000
欧文誌出版費支出	2,880,000					2,880,000
学術講演会開催費支出	14,887,000					14,887,000
講習会開催費支出	1,716,000					1,716,000
電子化運営委員会費支出	1,398,240					1,398,240
研究専門委員会費支出	3,500,000					3,500,000
調査専門委員会費支出	100,000					100,000
広告制作費支出	500,000					500,000
表彰費支出	400,000		400,000			800,000
国際会議派遣費支出	0			1,080,000		1,080,000
委託費支出	0		2,413,000			2,413,000
雑支出	0	700,000	620,000	150,000		1,470,000
(2)管理費支出	40,386,000					40,386,000
総会費支出	800,000					800,000
給料手当支出	16,750,000					16,750,000
臨時雇賃金支出	3,500,000					3,500,000
退職給付支出	2,500,000					2,500,000
福利厚生費支出	2,500,000					2,500,000
会議費支出	400,000					400,000
旅費交通費支出	100,000					100,000
通信運搬費支出	800,000					800,000
消耗什器備品費支出	100,000					100,000
消耗品費支出	400,000					400,000
印刷製本費支出	1,000,000					1,000,000
光熱水料費支出	330,000					330,000

賃借料支出	7,000,000					7,000,000
保険料支出	6,000					6,000
支払手数料支出	260,000					260,000
諸会費支出	260,000					260,000
諸謝金支出	1,300,000					1,300,000
租税公課支出	1,000,000					1,000,000
会費収納費支出	1,000,000					1,000,000
雑支出	380,000					380,000
(3)その他事業活動支出	1,000,000					1,000,000
雑損失支出	1,000,000					1,000,000
(4)他会計への繰入金支出	0	4,250,000			△4,250,000	0
一般会計への繰入金支出	0	4,250,000			△4,250,000	0
事業活動支出計	96,854,740	4,950,000	3,433,000	1,230,000	△4,250,000	102,217,740
事業活動収支差額	△1,689,740	△4,900,000	△3,383,000	△210,000	0	△10,182,740
Ⅱ　投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
(1)特定資産取崩収入	2,500,000	5,242,770	3,383,000	210,000		11,335,770
退職給付引当資産取崩収入	2,500,000					2,500,000
刊行物発行基金取崩収入		5,242,770				5,242,770
学術集会開催基金取崩収入			3,383,000			3,383,000
国際会議及び共催会議開催基金取崩収入				210,000		210,000
投資活動収入計	2,500,000	5,242,770	3,383,000	210,000		11,335,770
2. 投資活動支出						
(1)特定資産取得支出	800,000					800,000
退職給付引当資産取得支出	800,000					800,000
投資活動支出計	800,000	0	0	0		800,000
投資活動収支差額	1,700,000	5,242,770	3,383,000	210,000		10,535,770
Ⅲ　財務活動収支の部						
財務活動収支差額	0	0	0	0		0
Ⅳ　予備費支出						
予備費支出						
当期収支差額	10,260	342,770	0	0	0	353,030
前期繰越収支差額	17,225,852	△342,770	0	2,988,355	0	19,871,437
次期繰越収支差額	17,236,112	0	0	2,988,355	0	20,224,467

【第5号議案】

平成23年1月～2月　事業報告

（自 平成23年1月1日　至 平成23年2月28日）

I　庶　　務

1．会員状況

	平成23年 2月28日現在	平成22年 12月31日現在	増　減
名誉会員	8名	8名	0名
正 会 員	2,984名	2,977名	7名増
学生会員	1,167名	1,173名	6名減
賛助会員	60団体(85口)	59団体(84口)	1団体増(1口増)

2．シンポジウム，講習会等の主催，共催，協賛，後援（定款第4条1号，5号）

（1） シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト等1件を共催した．

（2） シンポジウム，国際会議，講演会，講習会，展示会，研究会等6件を協賛した．

（3） シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト，展示会等1件を後援・協力した．

3．新公益法人制度対応委員会

平成23年2月17日（木）に一般社団法人への移行認定証を受領し，3月1日（火）に登記の変更を完了した．

II　事　　業（定款第4条1号）

1．学術講演会・シンポジウム等

（1） 第29回学術講演会

学術講演会開催に向けた準備，議論を行った．

2．ロボット工学セミナー

2011年に開催予定のセミナーの準備または内容についての議論を行った．

3．共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行った．

4．出版事業

出版事業委員会における議論を継続して行った．

III　学　会　誌（定款第4条2号）

学会誌第29巻1号を発行し，会員に配布した．

第29巻1号　ソーシャルロボットと人間理解

一般記事，コラム「研究者の日常 or 非日常」，学会の報告記事，書評などの掲載に関して，も引き続き行った．また，ロボット分野の著名な方のインタビュー記事「この人に聞く」の掲載を行った．さらに，論文・解説記事等をJSTの提供するJ-STAGEから公開するために準備を進めた．

IV　欧　文　誌（定款第4条2号）

1．欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 25を2月まで発行した．各号の詳細は以下の通りである．

25/1-2　Dec.　Regular Issue（13 papers/pp. 1-288）

25/3-4　2011 Feb.　Cutting Edge of Robotics in Japan 2011（11 papers）

2．論文の投稿，査読の状況，企画／編集／発行作業，国際学術誌としての認知度と評価の向上，和文誌と欧文誌のあり方について，鋭意議論を行いながら順調に推移している．

V　企　　画

1．研究調査活動（定款第4条3号）

継続の調査研究委員会，研究専門委員会

前年度から継続して，以下の調査研究委員会，研究専門委員会活動を実施．

・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会　（委員長：成田雅彦，2010.3発足，I種）

・ロボット市場創造課題研究専門委員会（委員長：川村貞夫，2009.10発足，I種）

・生活機能構成学に関する研究専門委員会（委員長：西田佳史，2009.10発足，I種）

・RT機能安全研究専門委員会（委員長：山田陽滋，2009.4発足，I種）

・身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会（委員長：尾形邦裕，2009.4発足，I種）

・関西ロボット系若手研究者ネットワーク（委員長：栗田雄一，2009.4発足，I種）

・ヒューロビント研究専門委員会（委員長：松下光次郎，2009.4発足，I種）

・ロボット教育研究専門委員会（委員長：琴坂信哉，2008.8発足，2010.8継続，II種）

・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会（委員長：山本元司，2008.4発足，2010.4継続，I種）

・北海道ロボット技術研究専門委員会（委員長：小林幸徳，2008.4発足，2010.4継続，I種）

・カー・ロボティクス研究専門委員会（委員長：永井正夫，2008.4発足，2010.4継続，I種）

・ロボティック・サイエンス研究専門委員会（委員長：國吉康夫，2008.4発足，2010.4継続，I種）

・手の巧みさ研究専門委員会（委員長：星野　聖，2007.1発足，2011.1継続，II種）

・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会　（委員長：新妻実保子，2007.1発足，2011.1継続，II種）

2．規約等の制定・整備

・表彰規程の改定

ロボティクスシンポジア研究奨励賞の選考手順を決定した．

研究奨励賞の選考方法を検討した．

VI　国　　際（定款第4条5号）

1．国際委員会による国際化戦略活動の具体化

国際委員会が中心となって，（1）学会から発信する情報の質と量の充実，（2）広報活動，（3）研究協力活動，（4）海外とのネットワークの構築に向けた取り組み等に関する学会としての具体的な取り組みをさらに検討し，平成23年度に引き続き検討していくこととした．

2．第29回学術講演会における国際セッション

第29回以降の学術講演会においても，国際セッションのあり方について検討し，論文投稿方法，セッション構成の方法を合理的な手段で行えないか検討し，平成23年度に引き続き検討していくこととした．

【第 6 号議案】

平成 23 年 1 月～ 2 月　決算報告

Ⅰ　一般会計

貸　借　対　照　表

平成 23 年 2 月 28 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	32,941,961
現　　金	432,069
普通預金	21,494,068
振替口座	10,013,414
通常貯金	1,002,410
未収会費	2,948,000
未 収 金	2,411,715
前 払 金	483,923
仮 払 金	1,889,647
流動資産合計	40,675,246
2．固定資産	
（1）基本財産	
定期預金	21,000,000
基本財産合計	21,000,000
（2）特定資産	
退職給付引当資産	8,300,554
特定資産合計	8,300,554
（3）その他固定資産	
電話加入権	153,100
敷　　金	63,000
保 証 金	2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100
固定資産合計	32,016,654
資産合計	72,691,900
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未 払 金	884,241
前受会費	24,000
預 り 金	291,127
仮 受 金	56,000
流動負債合計	1,255,368
2．固定負債	
退職給付引当金	8,300,554
固定負債合計	8,300,554
負債合計	9,555,922
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	63,135,978
（うち基本財産への充当額）	(21,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(0)
正味財産合計	63,135,978
負債及び正味財産合計	72,691,900

正味財産増減計算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①基本財産運用益	0
基本財産受取利息	0
②特定資産運用益	760
特定資産受取利息	760
③受取入会金	46,000
正会員受取入会金	22,000
学生会員受取入会金	24,000
④受取会費	29,852,000
正会員受取会費	21,640,000
学生会員受取会費	1,732,000
賛助会員受取会費	6,480,000
⑤事業収益	1,884,750
会誌掲載事業収益	1,884,750
欧文誌事業収益	0
学術講演会事業収益	0
講習会事業収益	0
⑥雑収益	486,356
受取利息	3,431
広告収益	329,700
資料頒布収益	38,000
雑収益	115,225
⑦他会計からの繰入額	812,265
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入額	812,265
経常収益計	33,082,131
（2）経常費用	
①事業費	3,491,756
会誌出版費	1,739,246
会誌郵送費	566,497
会誌編集費	144,460
欧文誌編集費	36,590
欧文誌業務委託費	510,000
欧文誌出版費	0
学術講演会開催費	0
講習会開催費	0
電子化運営委員会費	381,076
研究専門委員会費	22,222
広告制作費	41,265
表彰費	50,400
②管理費	7,027,518
総会費	520,132
給料手当	2,351,765
臨時雇賃金	777,939
退職給付費用	760
福利厚生費	599,691
会議費	50,400
旅費交通費	27,960
通信運搬費	31,713
消耗什器備品費	0
消耗品費	34,690
印刷製本費	154,051
光熱水料費	52,952
賃借料	1,107,287
保険料	0
諸謝金	624,000
租税公課	458,700

会費収納費	64,988
雑費	170,490
③その他経常費用	26,061
雑損失	26,061
④他会計への繰出額	342,770
刊行物発行基金への繰出額	0
学術集会開催基金への繰出額	342,770
国際会議及び共催会議開催基金への繰出額	0
経常費用計	10,888,105
評価損益等調整前当期経常増減額	22,194,026
評価損益等計	0
当期経常増減額	22,194,026
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	22,194,026
一般正味財産期首残高	40,941,952
一般正味財産期末残高	63,135,978
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	63,135,978

注：前年度は，平成22年1月1日から平成22年12月31日までの1年分であるため，増減額が大きくなっている．

収　支　計　算　書

平成23年1月1日から平成23年2月28日まで

（単位：円）

科　　目	決算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）基本財産運用収入	0
基本財産利息収入	0
（2）特定資産運用収入	760
特定資産利息収入	760
（3）入会金収入	46,000
正会員入会金収入	22,000
学生会員入会金収入	24,000
（4）会費収入	29,852,000
正会員会費収入	21,640,000
学生会員会費収入	1,732,000
賛助会員会費収入	6,480,000
（5）事業収入	1,884,750
会誌掲載事業収入	1,884,750
欧文誌事業収入	0
学術講演会事業収入	0
講習会事業収入	0
（6）雑収入	486,356
受取利息収入	3,431
広告料収入	329,700
資料頒布収入	38,000
雑収入	115,225
（7）他会計からの繰入金収入	812,265
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入金収入	812,265
刊行物発行基金からの繰入金収入	0
事業活動収入計	33,082,131
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	3,491,756
会誌出版費支出	1,739,246
会誌郵送費支出	566,497
会誌編集費支出	144,460
欧文誌編集費支出	36,590
欧文誌業務委託費支出	510,000
欧文誌出版費支出	0
学術講演会開催費支出	0
講習会開催費支出	0
電子化運営委員会費支出	381,076
研究専門委員会費支出	22,222
調査専門委員会費支出	0
広告制作費支出	41,265
表彰費支出	50,400
（2）管理費支出	7,026,758
総会費支出	520,132
給料手当支出	2,351,765
臨時雇賃金支出	777,939
退職給付支出	0
福利厚生費支出	599,691
会議費支出	50,400
旅費交通費支出	27,960
通信運搬費支出	31,713
消耗什器備品費支出	0
消耗品費支出	34,690
印刷製本費支出	154,051
光熱水料費支出	52,952
賃借料支出	1,107,287
保険料支出	0
支払手数料支出	0
諸会費支出	0
諸謝金支出	624,000
租税公課支出	458,700
会費収納費支出	64,988
雑支出	170,490
（3）その他事業活動支出	26,061
雑損失支出	26,061
（4）他会計への繰入金支出	342,770
刊行物発行基金への繰入金支出	342,770
事業活動支出計	10,887,345
事業活動収支差額	22,194,786
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
（1）特定資産取崩収入	0
退職給付引当資産取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
（1）特定資産取得支出	760
退職給付引当資産取得支出	760
投資活動支出計	760
投資活動収支差額	△760
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
予備費支出	
当期収支差額	22,194,026
前期繰越収支差額	17,225,852
次期繰越収支差額	39,419,878

注：予算額は，平成23年1月1日から平成23年12月31日までの1年分であるため，差異が著しくなっている．

Ⅱ　刊行物発行基金

貸　借　対　照　表

平成 23 年 2 月 28 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．固定資産	
（1）特定資産	
刊行物発行基金	81,403,902
特定資産合計	81,403,902
固定資産合計	81,403,902
資産合計	81,403,902
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未払金	0
流動負債合計	0
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	81,403,902
（うち特定資産への充当額）	(81,403,902)
正味財産合計	81,403,902
負債及び正味財産合計	81,403,902

正味財産増減計算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	1,554
受取利息	1,554
②他会計からの繰入額	342,770
一般会計からの繰入額	342,770
経常収益計	344,324
（2）経常費用	
事業費	0
雑費	0
経常費用計	0
評価損益等調整前当期経常増減額	344,324
評価損益等計	0
当期経常増減額	344,324
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	344,324
一般正味財産期首残高	81,059,578
一般正味財産期末残高	81,403,902
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	81,403,902

注：前年度は，平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの 1 年分であるため，増減額が大きくなっている．

収　支　計　算　書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	決算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	1,554
受取利息収入	1,554
（2）他会計からの繰入金収入	342,770
一般会計からの繰入金収入	342,770
事業活動収入計	344,324
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	0
雑支出	0
（2）他会計への繰入金支出	0
一般会計への繰入金支出	0
事業活動支出計	0
事業活動収支差額	344,324
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
刊行物発行基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
刊行物発行基金へ繰入支出	1,554
投資活動支出計	1,554
投資活動収支差額	△ 1,554
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	342,770
前期繰越収支差額	△ 342,770
次期繰越収支差額	0

注：予算額は，平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 日 31 日までの 1 年分であるため，差異が著しくなっている．

Ⅲ　学術集会開催基金

貸　借　対　照　表

平成 23 年 2 月 28 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．固定資産	
（1）特定資産	
学術集会開催基金	66,603,376
特定資産合計	66,603,376
固定資産合計	66,603,376
資産合計	66,603,376
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	66,603,376
（うち特定資産への充当額）	(66,603,376)
正味財産合計	66,603,376
負債及び正味財産合計	66,603,376

正味財産増減計算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	698
受取利息	698
②他会計からの繰入額	0
一般会計からの繰入額	0
経常収益計	698
（2）経常費用	
事業費	0
雑費	0
経常費用計	0
評価損益等調整前当期経常増減額	698
評価損益等計	0
当期経常増減額	698
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	698
一般正味財産期首残高	66,602,678
一般正味財産期末残高	66,603,376
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	66,603,376

注：前年度は，平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの 1 年分であるため，増減額が大きくなっている．

収　支　計　算　書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	決算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	698
受取利息収入	698
事業活動収入計	698
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	0
表彰費支出	0
委託費支出	0
雑支出	0
事業活動支出計	0
事業活動収支差額	698
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
学術集会開催基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
学術集会開催基金へ繰入支出	698
投資活動支出計	698
投資活動収支差額	△ 698
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

注：予算額は，平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日までの 1 年分であるため，差異が著しくなっている．

Ⅳ　国際会議および共催会議開催基金

貸　借　対　照　表

平成 23 年 2 月 28 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
仮払金	2,237,281
流動資産合計	2,237,281
2．固定資産	
（1）特定資産	
国際会議及び共催会議開催基金	28,481,353
特定資産合計	28,481,353
固定資産合計	28,481,353
資産合計	30,718,634
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
一般正味財産	30,718,634
（うち特定資産への充当額）	(28,481,353)
正味財産合計	30,718,634
負債及び正味財産合計	30,718,634

正味財産増減計算書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①雑収益	203,249
受取利息	734
雑収益	202,515
②他会計からの繰入額	0
一般会計からの繰入額	0
経常収益計	203,249
（2）経常費用	
①事業費	0
表彰費	0
国際会議派遣費	0
雑費	0
②その他経常費用	141,324
雑損失	141,324
③他会計への繰出額	812,265
一般会計への繰出額	812,265
経常費用計	953,589
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 750,340
評価損益等計	0
当期経常増減額	△ 750,340
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 750,340
一般正味財産期首残高	31,468,974
一般正味財産期末残高	30,718,634
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	30,718,634

注：前年度は，平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの 1 年分であるため，増減額が大きくなっている．

収　支　計　算　書

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	決算額
Ⅰ　事業活動収支の部	
1．事業活動収入	
（1）雑収入	203,249
受取利息収入	734
雑収入	202,515
事業活動収入計	203,249
2．事業活動支出	
（1）事業費支出	0
国際会議派遣費支出	0
雑支出	0
（2）その他事業活動支出	141,324
雑損失支出	141,324
（3）他会計への繰入金支出	812,265
一般会計への繰入金支出	812,265
事業活動支出計	953,589
事業活動収支差額	△ 750,340
Ⅱ　投資活動収支の部	
1．投資活動収入	
国際会議及び共催会議開催基金取崩収入	0
投資活動収入計	0
2．投資活動支出	
国際会議及び共催会議開催基金へ繰入支出	734
投資活動支出計	734
投資活動収支差額	△ 734
Ⅲ　財務活動収支の部	
財務活動収支差額	0
Ⅳ　予備費支出	
当期収支差額	△ 751,074
前期繰越収支差額	2,988,355
次期繰越収支差額	2,237,281

注：予算額は，平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日までの 1 年分であるため，差異が著しくなっている．

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

（1）固定資産の減価償却の方法

減価償却の償却方法は定額法による．

（2）引当金の計上基準

退職給与引当金は，期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している．

（3）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込み方式によっている．

2．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
小　　計	21,000,000	0	0	21,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	8,299,794	760	0	8,300,554
刊行物発行基金	81,402,348	1,554	0	81,403,902
学術集会開催基金	66,602,678	698	0	66,603,376
国際会議及び共催会議開催基金	28,480,619	734	0	28,481,353
小　　計	184,785,439	3,746	0	184,789,185
合　　計	205,785,439	3,746	0	205,789,185

3．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
定期預金	21,000,000	（　　0）	（21,000,000）	—
小　　計	21,000,000	（　　0）	（21,000,000）	21,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	8,300,554	—	（　　0）	（8,300,554）
刊行物発行基金	81,403,902	（　　0）	（81,403,902）	—
学術集会開催基金	66,603,376	（　　0）	（66,603,376）	—
国際会議及び共催会議開催基金	28,481,353	（　　0）	（28,481,353）	—
小　　計	184,789,185	（　　0）	（176,488,631）	（8,300,554）
合　　計	205,789,185	（　　0）	（197,488,631）	（8,300,554）

収支計算書に対する注記

1．資金の範囲

資金の範囲には，現金・預金の他，未収会費，未収金，前払金，仮払金，未払金，前受会費，預り金及び仮受金を含めている．なお，前期末及び当期末残高は，下記2に記載するとおりである．

2．次期繰越収支差額の内容は，次のとおりである．

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	31,356,180	32,941,961
未収会費	3,442,000	2,948,000
未収金	5,398,350	2,411,715
前払金	997,595	483,923
仮払金	4,878,002	4,126,928
合　　計	46,072,127	42,912,527
未払金	2,880,073	884,241
前受会費	22,532,000	24,000
預り金	723,617	291,127
仮受金	65,000	56,000
合　　計	26,200,690	1,255,368
次期繰越収支差額	19,871,437	41,657,159

貸借対照表総括表

平成23年2月28日現在

（単位：円）

科　　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　資産の部						
1. 流動資産						
現金預金	32,941,961					32,941,961
現金	432,069					432,069
普通預金	21,494,068					21,494,068
振替口座	10,013,414					10,013,414
通常貯金	1,002,410					1,002,410
未収会費	2,948,000					2,948,000
未収金	2,411,715					2,411,715
前払金	483,923					483,923
仮払金	1,889,647			2,237,281		4,126,928
流動資産合計	40,675,246			2,237,281		42,912,527
2. 固定資産						
(1)基本財産						
定期預金	21,000,000					21,000,000
基本財産合計	21,000,000					21,000,000
(2)特定資産						
退職給付引当資産	8,300,554					8,300,554
刊行物発行基金		81,403,902				81,403,902
学術集会開催基金			66,603,376			66,603,376
国際会議及び共催会議開催基金				28,481,353		28,481,353
特定資産合計	8,300,554	81,403,902	66,603,376	28,481,353		184,789,185
(3)その他固定資産						
電話加入権	153,100					153,100
敷金	63,000					63,000
保証金	2,500,000					2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100					2,716,100
固定資産合計	32,016,654	81,403,902	66,603,376	28,481,353		208,505,285
資産合計	72,691,900	81,403,902	66,603,376	30,718,634		251,417,812
Ⅱ　負債の部						
1. 流動負債						
未払金	884,241					884,241
前受会費	24,000					24,000
預り金	291,127					291,127
仮受金	56,000					56,000
流動負債合計	1,255,368					1,255,368
2. 固定負債						
退職給付引当金	8,300,554					8,300,554
固定負債合計	8,300,554					8,300,554
負債合計	9,555,922					9,555,922
Ⅲ　正味財産の部						
一般正味財産	63,135,978	81,403,902	66,603,376	30,718,634		241,861,890
正味財産合計	63,135,978	81,403,902	66,603,376	30,718,634		241,861,890
負債及び正味財産合計	72,691,900	81,403,902	66,603,376	30,718,634		251,417,812

正味財産増減計算書総括表

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1)経常収益						
①基本財産運用益	0					0
基本財産受取利息	0					0
②特定資産運用益	760					760
特定資産受取利息	760					760
③受取入会金	46,000					46,000
正会員受取入会金	22,000					22,000
学生会員受取入会金	24,000					24,000
④受取会費	29,852,000					29,852,000
正会員受取会費	21,640,000					21,640,000
学生会員受取会費	1,732,000					1,732,000
賛助会員受取会費	6,480,000					6,480,000
⑤事業収益	1,884,750					1,884,750
会誌掲載事業収益	1,884,750					1,884,750
欧文誌事業収益	0					0
学術講演会事業収益	0					0
講習会事業収益	0					0
⑥雑収益	486,356	1,554	698	203,249		691,857
受取利息	3,431	1,554	698	734		6,417
広告収益	329,700					329,700
資料頒布収益	38,000					38,000
雑収益	115,225			202,515		317,740
⑦他会計からの繰入額	812,265	342,770	0	0	△ 1,155,035	0
一般会計からの繰入額	0	342,770	0	0	△ 342,770	0
国際会議及び共催会議開催基金からの繰入額	812,265				△ 812,265	0
経常収益計	33,082,131	344,324	698	203,249	△ 1,155,035	32,475,367
(2)経常費用						
①事業費	3,491,756					3,491,756
会誌出版費	1,739,246					1,739,246
会誌郵送費	566,497					566,497
会誌編集費	144,460					144,460
欧文誌編集費	36,590					36,590
欧文誌業務委託費	510,000					510,000
欧文誌出版費	0					0
学術講演会開催費	0					0
講習会開催費	0					0
電子化運営委員会費	381,076					381,076
研究専門委員会費	22,222					22,222
広告制作費	41,265					41,265
表彰費	50,400					50,400
国際会議派遣費	0					0
雑費	0					0
②管理費	7,027,518					7,027,518
総会費	520,132					520,132
給料手当	2,351,765					2,351,765
臨時雇賃金	777,939					777,939
退職給付費用	760					760
福利厚生費	599,691					599,691
会議費	50,400					50,400
旅費交通費	27,960					27,960
通信運搬費	31,713					31,713
消耗什器備品費	0					0
消耗品費	34,690					34,690
印刷製本費	154,051					154,051
光熱水料費	52,952					52,952
賃借料	1,107,287					1,107,287
保険料	0					0
諸謝金	624,000					624,000
租税公課	458,700					458,700
会費収納費	64,988					64,988
雑費	170,490					170,490
③その他経常費用	26,061			141,324		167,385
雑損失	26,061			141,324		167,385
④他会計への繰出額	342,770			812,265	△ 1,155,035	0
一般会計への繰出額	0			812,265	△ 812,265	0
刊行物発行基金への繰出額	342,770				△ 342,770	0
経常費用計	10,888,105	0	0	953,589	△ 1,155,035	10,686,659
評価損益等調整前当期経常増減額	22,194,026	344,324	698	△ 750,340		21,788,708
評価損益等計	0	0	0	0		0
当期経常増減額	22,194,026	344,324	698	△ 750,340		21,788,708
2. 経常外増減の部						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0		0
(2)経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	22,194,026	344,324	698	△ 750,340		21,788,708
一般正味財産期首残高	40,941,952	81,059,578	66,602,678	31,468,974		220,073,182
一般正味財産期末残高	63,135,978	81,403,902	66,603,376	30,718,634		241,861,890
Ⅱ　指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0		0
Ⅲ　正味財産期末残高	63,135,978	81,403,902	66,603,376	30,718,634		241,861,890

収支計算書総括表

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日まで

（単位：円）

科　　目	一般会計	刊行物発行基金	学術集会開催基金	国際会議及び共催会議開催基金	内部取引消去	合　計
Ⅰ　事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
(1)基本財産運用収入	0					0
基本財産利息収入	0					0
(2)特定資産利息収入	760					760
特定資産利息収入	760					760
(3)入会金収入	46,000					46,000
正会員入会金収入	22,000					22,000
学生会員入会金収入	24,000					24,000
(4)会費収入	29,852,000					29,852,000
正会員会費収入	21,640,000					21,640,000
学生会員会費収入	1,732,000					1,732,000
賛助会員会費収入	6,480,000					6,480,000
(5)事業収入	1,884,750					1,884,750
会誌掲載事業収入	1,884,750					1,884,750
欧文誌事業収入	0					0
学術講演会事業収入	0					0
講習会事業収入	0					0
(6)雑収入	486,356	1,554	698	203,249		691,857
受取利息収入	3,431	1,554	698	734		6,417
広告料収入	329,700					329,700
資料頒布収入	38,000					38,000
雑　収　入	115,225			202,515		317,740
(7)他会計からの繰入金収入	812,265	342,770	0	0	△ 1,155,035	0
一般会計からの繰入金収入		342,770	0	0	△ 342,770	0
国際会議及び共催会議開催基金から繰入金収入	812,265				△ 812,265	0
事業活動収入計	33,082,131	344,324	698	203,249	△ 1,155,035	32,475,367
2. 事業活動支出						
(1)事業費支出	3,491,756					3,491,756
会誌出版費支出	1,739,246					1,739,246
会誌郵送費支出	566,497					566,497
会誌編集費支出	144,460					144,460
欧文誌編集費支出	36,590					36,590
欧文誌業務委託費支出	510,000					510,000
欧文誌出版費支出	0					0
学術講演会開催費支出	0					0
講習会開催費支出	0					0
電子化運営委員会費支出	381,076					381,076
研究専門委員会費支出	22,222					22,222
広告制作費支出	41,265					41,265
表彰費支出	50,400					50,400
国際会議派遣費支出	0					0
雑　支　出	0					0
(2)管理費支出	7,026,758					7,026,758
総会費支出	520,132					520,132
給料手当支出	2,351,765					2,351,765
臨時雇賃金支出	777,939					777,939
福利厚生費支出	599,691					599,691
会議費支出	50,400					50,400
旅費交通費支出	27,960					27,960
通信運搬費支出	31,713					31,713
消耗什器備品費支出	0					0
消耗品費支出	34,690					34,690
印刷製本費支出	154,051					154,051
光熱水料費支出	52,952					52,952
賃借料支出	1,107,287					1,107,287
保険料支出	0					0
諸謝金支出	624,000					624,000
租税公課支出	458,700					458,700
会費収納費支出	64,988					64,988
雑　支　出	170,490					170,490
(3)その他事業活動支出	26,061			141,324		167,385
雑損失支出	26,061			141,324		167,385
(4)他会計への繰入金支出	342,770			812,265	△ 1,155,035	0
一般会計への繰入金支出				812,265	△ 812,265	0
刊行物発行基金への繰入金支出	342,770				△ 342,770	0
事業活動支出計	10,887,345	0	0	953,589	△ 1,155,035	10,685,899
事業活動収支差額	22,194,786	344,324	698	△ 750,340	0	21,789,468
Ⅱ　投資活動収支の部						
1. 投資活動支出						
(1)特定資産取得支出	760					760
退職給付引当資産取得支出	760					760
(2)基金への繰入支出		1,554	698	734		2,986
刊行物発行基金へ繰入支出		1,554				1,554
学術集会開催基金へ繰入支出			698			698
国際会議及び共催会議開催基金繰入支出				734		734
投資活動支出計	760	1,554	698	734		3,746
投資活動収支差額	△ 760	△ 1,554	△ 698	△ 734		△ 3,746
Ⅲ　財務活動収支の部						
財務活動収支差額	0	0	0	0		0
Ⅳ　予備費支出						
予備費支出						
当期収支差額	22,194,026	342,770	0	△ 751,074		21,785,722
前期繰越収支差額	17,225,852	△ 342,770	0	2,988,355		19,871,437
次期繰越収支差額	39,419,878	0	0	2,237,281		41,657,159

お　知　ら　せ

財　産　目　録

平成 23 年 2 月 28 日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現金　手許有高	432,069		
普通預金　三菱東京 UFJ 銀行本店	4,700,165		
〃　みずほ銀行本郷支店	9,629,682		
〃　みずほ銀行本郷支店	3,093,060		
〃　りそな銀行本郷支店	4,071,161		
振替口座　ゆうちょ銀行	10,013,414		
通常貯金　ゆうちょ銀行	1,002,410		
未収会費　平成 22 年度会費 422 名・3 口分	2,948,000		
未収金　学会誌投稿料・広告料他	2,411,715		
前払金　平成 23 年 3 月分事務所家賃他	483,923		
仮払金　研究専門委員会費	1,889,647		
〃　IROS2009・2011 分担金	2,237,281		
流動資産合計		42,912,527	
2　固定資産			
（1）　基本財産			
定期預金　基本財産（三菱東京 UFJ 銀行本店）	21,000,000		
基本財産合計	21,000,000		
（2）　特定資産			
退職給付引当資産　普通預金　三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	8,300,554		
刊行物発行基金　普通預金　三井住友銀行小石川支店	26,238,902		
〃　定期預金　三井住友銀行小石川支店	55,165,000		
学術集会開催基金　普通預金　三菱 UFJ 信託銀行本店	6,603,376		
〃　定期預金　三菱 UFJ 信託銀行本店	60,000,000		
国際会議および　普通預金　みずほ銀行本郷支店	10,451,353		
共催会議開催基金　定期預金　みずほ銀行本郷支店	18,030,000		
特定資産合計	184,789,185		
（3）　その他固定資産			
電話加入権　2 本	153,100		
敷金　賃貸借契約敷金	63,000		
保証金　賃貸借契約保証金	2,500,000		
その他固定資産合計	2,716,100		
固定資産合計		208,505,285	
資産合計			251,417,812
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金　人材派遣費・税理士報酬他	884,241		
前受会費　会費前受分	24,000		
預り金　源泉所得税	89,590		
〃　住民税	46,700		
〃　社会保険料	154,837		
仮受金　会費誤入金分	56,000		
流動負債合計		1,255,368	
2　固定負債			
退職給付引当金　退職給付分	8,300,554		
固定負債合計		8,300,554	
負債合計			9,555,922
正味財産			241,861,890

監査報告書

一般社団法人　日本ロボット学会
会　　長　榊　原　伸　介　殿

私共監事２名は，この総会資料に記載されている平成23年１月～２月の事業報告書ならびに同年度の一般会計，刊行物発行基金，学術集会開催基金，国際会議および共催会議開催基金に関する貸借対照表，正味財産増減計算書，収支計算書及び財産目録などにつき監査を実施しました．

監査の結果，いずれも特例民法法人（公益法人）の会計基準に準拠しつつ，前年度と同一の会計方針を適用しており，また定款の定めに準拠しているものと認めます．

以　上

平成23年３月25日
一般社団法人日本ロボット学会

監　事　内　山　　勝　㊞
監　事　佐　藤　智　正　㊞

【報告資料 1】

平成 23 年 3 月～ 12 月　事業計画

（自 平成 23 年 3 月 1 日　至 平成 23 年 12 月 31 日）

I 庶　　務

1．第 29 回総会

会　期：平成 23 年 3 月 29 日（火）

会　場：本郷瀬川ビル

2．委員会活動

下記の委員会を開催する．

（1） 会誌編集委員会（委員長：佐野明人）
（2） 欧文誌委員会（委員長：細田　耕）
（3） 事業計画委員会（委員長：梅田和昇）
（4） 国際委員会（委員長：横小路泰義）
（5） 研究協議会（委員長：淺間　一）
（6） 出版事業委員会（委員長：梅田和昇）
（7） 電子化運営委員会（委員長：小平紀生）
（8） アドバイザリーボード（委員長：川村貞夫）
（9） 将来ビジョン策定委員会（委員長：川村貞夫）
（10） 事務局体制検討委員会（委員長：小平紀生）
（11） 第 29 回学術講演会実行委員会（委員長：水川　真）
（12） 表彰委員会（委員長：淺間　一）
（13） 第 25 回論文賞選考小委員会（委員長：小平紀生）
（14） 第 26 回研究奨励賞選考小委員会（委員長：川村貞夫）
（15） 第 27 回研究奨励賞選考小委員会（委員長：小平紀生）
（16） 第 16 回実用化技術賞選考小委員会（委員長：淺間　一）
（17） 第 4 回功労賞選考小委員会（委員長：小平紀生）
（18） 第 3 回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会（委員長：淺間　一）
（19） 第 1 回ロボティクスシンポジア研究奨励賞選考小委員会（委員長：小平紀生）
（20） 外部表彰選考小委員会（委員長：淺間　一）
（21） 会員 5000 名拡大計画委員会（委員長：小平紀生）
（22） 著作権管理委員会（委員長：淺間　一）
（23） 学術講演会管理推進委員会（委員長：淺間　一）

3．役員の選出

平成 23 年度の理事・監事を選出する．

4．フェロー，名誉会員の選任

フェロー，名誉会員の推薦を行い選任する．

5．学会の基盤強化

会員の拡大，論文発表の活性化をめざし，広報活動，産業貢献活動の強化，学会誌の充実を通して，学会の知名度向上をはかる．また，非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動，高齢者層会員，学生会員が会員継続したくなる価値の創出若年層への啓発活動を継続実施する．

6．電子化運営委員会

（1） 学会 DB をもとに，会員限定サービスとして，学会員の個人情報データベース編集・検索機能を設け，さらに会員名簿の電子化を実施する．
（2） 学会ホームページを通じた会員サービス拡大を目指し，コンテンツの拡充をはかる．

7．事務局

中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する．

II 事　　業（定款第 4 条 1 号）

1．学術講演会・シンポジウム等

（1） 第 29 回学術講演会

期　　日：2011 年 9 月 7 日（水）～ 9 日（金）
会　　場：芝浦工業大学
実行委員長：水川　真（芝浦工業大学）
プログラム委員長：長谷川泰久（筑波大学）

2．ロボット工学セミナー

（1） 第 62 回シンポジウム「ロボットに使える画像処理技術の最前線」

期　　日：2011 年 5 月（予定）
オーガナイザ：奥田晴久（三菱電機（株））

（2） 第 63 回シンポジウム「ロボットの作り方 2011」

期　　日：2011 年 6 月（予定）
オーガナイザ：高山俊男（東京工業大学），山田浩也（東京工業大学）

（3） 第 64 回シンポジウム「人と共生するロボットのインタラクション技術」

期　　日：2011 年 7 月（予定）関西地区にて開催予定
オーガナイザ：山口智治（日本電気（株））

（4） 第 65 回シンポジウム「実用ロボット－誕生秘話と今後の展望」

期　　日：2011 年 9 月（予定）学術講演会に合わせて開催予定
オーガナイザ：十倉征司（（株）東芝），日高洋士（（株）富士通研究所）

（5） 第 66 回シンポジウム「動物に見る賢さと巧みさ～新しいロボットへの道標～」

期　　日：2011 年 9 月（予定）
オーガナイザ：鍋嶌厚太（CYBERDYNE（株））

（6） 第 67 回シンポジウム「最新シミュレーション技術とロボティクス」

期　　日：2011 年 10 月（予定）
オーガナイザ：坂本守行（川崎重工業（株））

（7） 第 68 回シンポジウム「ロボティクスにおける認識・物体操作のための触覚技術」

期　　日：2011 年 11 月（予定）
オーガナイザ：山野辺夏樹（産業技術総合研究所）

3．共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う．

国内共催事業（予定を含む）：

（1） 第 16 回ロボティクスシンポジア

期　　日：2011 年 3 月 14 日（月）・15 日（火）
会　　場：指宿シーサイドホテル（鹿児島県）
実行委員長：余　　永（鹿児島大学）
プログラム委員長：栗栖正充（東京電機大学）

（2） ロボカップジャパンオープン 2011

期　　日：2011 年 5 月 3 日（火）～ 5 日（木）
開　催　地：インテックス大阪

（3） 第 11 回レスキューロボットコンテスト

期　　日：2011 年 6 月 26 日（日）・8 月 6 日（土）～ 8 日（日）
開　催　地：神戸サンボーホール

4．出版事業

出版事業委員会における議論を継続する．

III 学　会　誌（定款第 4 条 2 号）

学会誌第 29 巻第 2 号より第 10 号を，3 月，4 月，5 月，6 月，7 月，9 月，10 月，11 月，12 月に刊行し，会員に配布する．各号の特集テーマは以下のものを予定している．

第 29 巻 2 号　研究者がロボットを伝えるために
第 29 巻 3 号　人と接するロボットの研究を考える
第 29 巻 4 号　ロボット技術の国際標準（仮）
第 29 巻 5 号　確率理論のロボティクス応用（仮）
第 29 巻 6 号　機構の知と技（仮）
第 29 巻 7 号　第 28 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 I（仮）
第 29 巻 8 号　第 28 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 II（仮）
第 29 巻 9 号　ロボットの安全コンポーネント（仮）
第 29 巻 10 号　人とロボット共生学（仮）

また，平成 23 年度は，前年度に引き続き，魅力的な特集号の企画，一般記事の企画，広告の取得，会誌関連記事の出版化などについて取り組む．特に，第 30 巻において 30 周年記念号を発行することになっ

ており，その企画・準備を行う．論文採択率の適正化に向けた検討は，論文カテゴリの見直しや査読方法の見直しも含めて引き続き行うと同時に，規則集の見直しを行う．学術講演会論文特集号に加え，一昨年度に開始した特定のテーマの論文を公募する形の論文特集号について，公募テーマの検討を行う．

広告に関しては，昨今の経済状況を考慮して広告収入目標を500万円と設定し，具体的に達成に向けた取り組みを行う．

ロボコンマガジンに連載している研究紹介を継続して行う．

一般記事に関しては，最新のキーワードをわかり易く説明する解説の掲載を開始する．また，コラム「研究者の日常 or 非日常」の掲載，およびロボット分野の著名な方のインタビューをまとめた形式の記事「この人に聞く」の掲載を継続して行う．

第27巻以降のバックナンバーの公開をJ-STAGEから行う．これにより，論文・解説記事等の電子化・アーカイブ化は完了する．論文に関連する動画の受付を開始する．

中長期目標として，学会誌の掲載解説記事の英文化や，和文論文のFull translationによる欧文誌への掲載，など欧文誌との連携について検討する．また，学会誌の12号化についても引き続き検討を行う．

IV　欧　文　誌（定款第4条2号）

1．欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり，2011年度（3月以降）においてはVol. 25 No. 5から18を合計14巻発行することを計画している．

25/5	Mar.	Physical Human-Robot Interaction Through Force Interface（7 papers）
25/6-7	Apr.	Regular Issue（13 papers）
25/8	May	Cordless Technology for Milli/Micro/Nano Robots（6 papers）
25/9-10	Jun.	Regular Issue（13 papers）
25/11	Jul.	Rehabilitation Robotics on Mobility & Manipulation
25/12-13	Aug.	Regular Issue
25/14	Sep.	Regular Issue
25/15	Oct.	Dynamical System Involving Symbol Processing
25/16-17	Nov.	Regular Issue
25/18	Dec.	Regular Issue

2．編集体制

これまでに引き続き菅野重樹編集長の下，15名の欧文誌委員会メンバーを中心に，国際編集委員，アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら，欧文誌Advanced Roboticsの国際的認知度向上，さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく．

3．欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2011年度から，年間18号への増加によって，一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られると考えられるので，今後は積極的かつ戦略的な特集号企画を行い，国際的な認知度のさらなる向上を図るとともに，Citation Indexの評価（インパクトファクタ）の向上を目指していきたい．さらに，国際貢献の意味も含め，国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として，投稿料無料を堅持する．

4．国際化に向けての活動

2011年3月以降も主要な国際会議（IROS2011）にあわせて国際編集委員会を開催し，海外委員による特集号企画などを通して，国際的認知度を高める努力を行っていく．また，国際貢献のために，ロボット学会の外国人会員の増加，日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく．また，国際委員会の活動に協力し，アジアロボット学会連合（ARSU: Asian Robotics Society Union）の参加学会との協力体制強化，パンフレットの国際会議場などでの配布，ウェブの英語コンテンツ充実，等を実施する．

V　企　　画

1．調査・研究専門委員会活動（定款第4条3号）

以下の研究専門委員会による委員会調査活動を行う．

・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会　（委員長：成田雅彦，2010. 3発足，I種）
・生活機能構成学に関する研究専門委員会
（委員長：西田佳史，2009. 10発足，2011. 4継続，I種）
・RT機能安全研究専門委員会
（委員長：山田陽滋，2009. 4発足，2011. 4継続，I種）
・関西ロボット系若手研究者ネットワーク
（委員長：栗田雄一，2009. 4発足，2011. 4継続，I種）
・ヒューロビント研究専門委員会
（委員長：松下光次郎，2009. 4発足，2011. 4継続，I種）
・ロボット教育研究専門委員会
（委員長：琴坂信哉，2008. 8発足，2010. 8継続，II種）
・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会
（委員長：山本元司，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・北海道ロボット技術研究専門委員会
（委員長：小林幸徳，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・カー・ロボティクス研究専門委員会
（委員長：永井正夫，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・ロボティック・サイエンス研究専門委員会
（委員長：國吉康夫，2008. 4発足，2010. 4継続，I種）
・手の巧みさ研究専門委員会
（委員長：星野　聖，2007. 1発足，2011. 1継続，II種）
・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会　（委員長：新妻実保子，2007. 1発足，2011. 1継続，II種）

ただし，ロボット市場創造課題研究専門委員会，身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会については，当初の目的を達成した等の理由により，2011年3月末日をもって終了とする．

2．規約等の制定・整備

学会運営の効率化・適正化，学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく．

3．表彰（定款第4条4号）

第29回学術講演会において論文賞，実用化技術賞，研究奨励賞，功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う．また，本年度以降も財団法人ファナックFAロボット財団の論文賞への候補論文の推薦，財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う．

VI　国　　際（定款第4条5号）

平成23年度は，平成22年度の活動を継続し，着実にアジア全体のロボット学会との関係を積み上げていく方針である．

1．国際委員会による国際化戦略活動の具体化

国際委員会が中心となって，(1) 学会から発信する情報の質と量の充実，(2) 広報活動，(3) 研究協力活動，(4) 海外とのネットワークの構築に向けた取り組み等に関する学会としての具体的な取り組み及びミッションステートメントを検討していく．

2．第29回学術講演会における国際セッション

第29回学術講演会においても，国際セッションを実施する．論文投稿方法，セッション構成の方法を改善できないか検討する．新しいオーガナイズドセッションの企画を検討する．

3．国際交流活動

（1）　第5回アジアロボットサミット（5th Asian Robotics Society Summit Meeting（ARSSM））の開催
日時，場所は，IROS2011時にサンフランシスコで開催する．

（2）　アジアロボット学会連合（ARSU：Asian Robotics Society Union）の活動

1）　ARSUのウェブサイトhttp://www.asian-robotics.org/の拡充を行う．
・MOUの承認後，掲載．
・各国事務局の掲載．
・解説記事や各国の代表的な研究成果を掲載するページを設け，研究成果の共有を図る．

2）　アジアロボットサミットの合意事項を推進する．
・Young Researchers Networkを設ける．
・ARSU主催の国際会議の開催の検討．

・教科書等の翻訳を含む教育の推進協力.

（3） 韓国ロボット学会（KROS）との MOU の見直し

・MOU に記載された KROS 会員の AR 購読条件が，AR の全員購読無料化に伴い不可能となったことに対応したため，MOU の見直しが必要である.

4．国際会議

ROMAN, IROS を利用した日本ロボット学会のプレゼンス向上の方法を検討する．また，若手研究者支援，ポスター，パワーポイント等を利用した積極的広報活動についても検討を行う.

5．情報発信，その他

（1） 英文ホームページの更新，改善

国際化に有効と考えられるコンテンツの検討を行い，ホームページの改善に取り組む.

（2） 英文ポスター等の検討

国際会議会場における RSJ の効果的な宣伝媒体について検討する.

（3） 国際関係の 30 周年事業の検討

国際委員会として，ロボット学会 30 周年事業について検討する.

6．国際会議共催／協賛

本学会に協賛，後援の依頼のあった国際会議，講演会等については，会員に有益と判断されるものについては積極的に協賛，後援を行い，RSJ の広報活動の場としても活用する．共催に関しては，運営主体の信頼性，また予算案の妥当性を検討して決定する．現在の共催予定は下記の通りである.

・第 16 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム（AROB 16th '11）

期日：2011 年 1 月 27 日～ 1 月 29 日，会場：大分，日本

・2011 Robotics：Science & Systems（RSS2011）

期日：2011 年 6 月 27 日～ 6 月 30 日，会場：Los Angeles，USA

・20th IEEE International Symposium in Robot and Human Interactive Communication（RO-MAN 2011）

期日：2011 年 7 月 31 日～ 8 月 3 日，会場：Atlanta，USA

・2011 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems（IROS 2011）

期日：2011 年 9 月 25 日～ 9 月 30 日，会場：San Francisco，USA

【報告資料 2】

平成 23 年 3 月～ 12 月　予算計画

収支予算書（損益ベース）　平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日（公益事業）

科目	実施事業等会計							
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	小計 (A)
Ⅰ　一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1)経常収益								
特定資産運用益								
特定資産受取利息								
受取入会金								
正会員入会金								
学生会員入会金								
受取会費								
正会員会費								
学生会員会費								
賛助会員会費								
事業収益		21,147,000	1,580,000					22,727,000
申込金								
参加費								
懇親会参加費								
展示料								
講演概要集広告料								
セミナー参加費								
会誌掲載料		14,115,000						14,115,000
会誌広告料		4,670,000						4,670,000
会誌頒布収入		2,362,000						2,362,000
編集料			1,580,000					1,580,000
雑収益								
受取利息								
雑収益								
経常収益計		21,147,000	1,580,000					22,727,000
(2)経常費用								
事業費								
給料手当		5,112,000			2,232,000			7,344,000
臨時雇賃金								
退職給付費用		420,000			180,000			600,000
福利厚生費		497,000			217,000			714,000
旅費交通費				1,431,000		1,080,000		2,511,000
通信運搬具		4,734,000						4,734,000
消耗品費								
印刷製本費		18,261,000		358,000				18,619,000
賃借料								
諸謝金				1,789,000				1,789,000
支払負担金			2,880,000					2,880,000
委託費		1,867,000	2,689,000					4,556,000
雑費					750,000	150,000		900,000
管理費								
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬具								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計		30,891,000	5,569,000	3,578,000	3,379,000	1,230,000		44,647,000
評価損益等調整前当期経常増減額								
当期経常増減額		-9,744,000	-3,989,000	-3,578,000	-3,379,000	-1,230,000		-21,920,000
2. 経常外増減の部								
(1)経常外収益								
経常外収益計								
(2)経常外費用								
経常外費用計								
当期経常外増減額		0	0	0	0	0		0
他会計振替額								
当期一般正味財産増減額		-9,744,000	-3,989,000	-3,578,000	-3,379,000	-1,230,000		-21,920,000

収支予算書（損益ベース）　平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日（その他事業）

科目	その他会計				法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A)+(B)+(C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
Ⅰ　一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
特定資産運用益					85,000		85,000
特定資産受取利息					85,000		85,000
受取入会金					504,000		504,000
正会員入会金					128,000		128,000
学生会員入会金					376,000		376,000
受取会費					12,108,000		12,108,000
正会員会費					8,360,000		8,360,000
学生会員会費					3,268,000		3,268,000
賛助会員会費					480,000		480,000
事業収益	19,700,000	2,610,000		22,310,000			45,037,000
申込金	4,000,000			4,000,000			4,000,000
参加費	9,400,000			9,400,000			9,400,000
懇親会参加費	2,900,000			2,900,000			2,900,000
展示料	3,000,000			3,000,000			3,000,000
講演概要集広告料	400,000			400,000			400,000
セミナー参加費		2,610,000		2,610,000			2,610,000
会誌掲載料							14,115,000
会誌広告料							4,670,000
会誌頒布収入							2,362,000
編集料							1,580,000
雑収益					1,826,000		1,826,000
受取利息					144,000		144,000
雑収益					1,682,000		1,682,000
経常収益計	19,700,000	2,610,000		22,310,000	14,523,000		59,560,000
(2)経常費用							
事業費							64,079,000
給料手当	288,000			288,000			7,632,000
臨時雇賃金	2,000,000	154,000		2,154,000			2,154,000
退職給付費用							600,000
福利厚生費	28,000			28,000			742,000
旅費交通費		280,000		280,000			2,791,000
通信運搬具	794,000			794,000			5,528,000

消耗品費		400,000		400,000			400,000
印刷製本費	3,100,000	154,000		3,254,000			21,873,000
賃借料	2,280,000	175,000		2,455,000			2,455,000
諸謝金	300,000	525,000		825,000			2,614,000
支払負担金	3,820,000			3,820,000			6,700,000
委託費	4,406,000			4,406,000			8,962,000
雑費	700,000	28,000		728,000			1,628,000
管理費							25,753,000
給料手当					6,768,000		6,768,000
臨時雇賃金					2,720,000		2,720,000
退職給付費用					200,000		200,000
福利厚生費					1,158,000		1,158,000
会議費					630,000		630,000
旅費交通費					472,000		472,000
通信運搬具					768,000		768,000
消耗什器備品費					100,000		100,000
消耗品費					365,000		365,000
印刷製本費					846,000		846,000
光熱水料費					277,000		277,000
賃借料					5,893,000		5,893,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					260,000		260,000
諸会費					260,000		260,000
諸謝金					676,000		676,000
租税公課					541,000		541,000
委託費					2,352,000		2,352,000
雑費					1,461,000		1,461,000
経常費用計	17,716,000	1,716,000		19,432,000	25,753,000		89,832,000
評価損益等調整前当期経常増減額							
当期経常増減額	1,984,000	894,000		2,878,000	−11,230,000		−30,272,000
2. 経常外増減の部							
(1)経常外収益							
経常外収益計							
(2)経常外費用							
経常外費用計							
当期経常外増減額	0	0		0	0		0
他会計振替額							
当期一般正味財産増減額	1,984,000	894,000		2,878,000	−11,230,000		−30,272,000

【報告資料 3】

個人会員除名および資格の喪失の件

日本ロボット学会定款の定款第 10 条（資格の喪失）（1）の対象者数を以下に示す.

正会員	72 名
学生会員	104 名
合　計	176 名

なお，本年は定款第 9 条（除名）対象者はおりません.

【第 7 号議案】（お知らせ 60 参照）

【第 8 号議案】

会費入会金細則改訂の件

一般社団法人日本ロボット学会 会費入会金細則

2011 年 3 月 29 日総会議決

（目的）

第 1 条　本細則は，本会定款第 7 条に基づき，会費及び入会金の額及び納入のしかたを定める.

（会費）

第 2 条　会員は，年度ごとに次の会費を前納しなければならない.

（1）　正会員　10,000 円

（2）　学生会員　4,000 円

（3）　賛助会員 1 口　80,000 円（1 口以上）

（4）　準会員　2,000 円

2　新入の会員は，入会当初に当該年度分の会費を納入しなければならない.

（入会金）

第 3 条　正会員，学生会員及び準会員の入会にあたっては 1,000 円の入会金を納入しなければならない.

附則

（実施期日）

1. 本細則は 2011 年 3 月 29 日から実施する.